

take	him	there	居るから連れて
with	us.		参りませう

第二十六課

Teacher and One of his Students.

教師と其生徒との話

Teacher.	Have	you	「教師」君は下調
	prepared	for	を致しましたか
	your	lesson?	

Student.	Yes,	I	have.	「生徒」いたしま
				した

Teacher.	You	are	al-	「教師」君はいつ
	ways	diligent	in	も勉強です。君
	your	lessons.	Have	の作文は出来ま
	you	written	your	したか

composition?

Student.	Yes,	I	have.	「生徒」書きまし
	Please	correct	the	た。どうぞ私が
	mistakes	made	by	いたしました誤
	me.			を正して下さい

Teacher.	Here	are	three	mistakes.	You	「教師」三つ誤が	
	are	required	to	write	your	composition	あります。今度
	in	every	other	line	from	this	からは作文を一
	on.						行宛間をあけて
							書いて下さい

Student.	Certainly	I	will.	「生徒」かしこま
				りました

Teacher.	I	shall	give	「教師」来週の今
	you	an	examination	日英語の試験を

^{イン イングリッシュ オフ デイ}
in English this day
^{ウィーク}
week.

いたします

Student. ^{オウ} When ^{ウィル} will
^{アウア} our ^{サママ} summer ^{ヴァカ} vaca-
^{ション} tion ^{ビギン} begin?

「生徒」 何時夏休
は始まりますか

Teacher. ^{アイ} I ^{シンク} think, ^{イット} it
^{ウィル} will ^{ビギン} begin ^{オン} on ^ザ the
^{トゥエンティファースト オフ ジュライ}
21st of July
^{ネクスト} next. ^{ハウ} How ^{ドゥ} do ^{ユー} you
^{エクスペクト} expect ^{トゥ} to ^{スピンド} spend ^{イット} it?

「教師」 七月二十
一日から始まり
ませう。夏休を
どうして暮すつ
もりですか

Student. ^{アイ} I ^{サップोज} suppose, ^{アイ} I
^{シャル} shall ^{スピンド} spend ^{イット} it ^{イン} in
^{トラベリング} travelling ^{スル} through
^{コリア} Korea ^{アンド} and ^{マン} Man-
^{チュリア} churia.

「生徒」 多分滿韓
地方へ旅行をし
て暮すつもりで
す

Teacher. ^{ザット} That's ^ア a ^{ヴェリ} very
^{キャピタル} capital ^{レゾリューション} resolution.
^{オウ} When ^{ドゥ} do ^{ユー} you ^{エクスペクト} expect
^{トゥ} to ^{リーブ} leave ^ザ the ^{カウ} coun-
^{ント} try ^{フォー} for ^{アブロード} abroad?

「教師」 それは大
層よき御決心で
す何時御出發の
積りですか

Student. ^{アバウト} About ^ザ the
^{ビギニング} beginning ^{オブ} of ^{オグ} August
^{ネクスト} next ^{アイ} I ^{シャル} shall ^{スタート} start
^{バイ} by ^{スチーム} steamer.

「生徒」 汽船で來
八月初旬に出か
けます

Teacher. ^{ゼン} Then ^{アイ} I ^{シャル} shall
^{ゴー} go ^{ウィズ} with ^{ユー} you ^{ゼア} there.
^{マイ} My ^{フレンド} friend ^{ミスター} Mr.
^{コムラ} Komura ^{イズ} is ^{スタying} staying
^{イン} in ^{ムクデン} Muckden, ^ソ so ^{ザット} that
^{アイ} I ^{イントン} intend ^{トゥ} to ^{ゴー} go ^{ゼア} there

「教師」 そんなら
其處へ一處に行
きませう私の一
友小村氏は奉天
に居ますから同
氏に遇に参りま

トフ- ヲ- ヒム
to see him.

Student. ^{イフ ム- フイキ} If you take
^{ミ- フイズ ム- マイ} me with you, my
^{オヤレワ フイル フイ-ル} parents will feel
^{オウケツル フォ-ア ム-ア} thankful for your
^{オインフキス フフ- フイキ} kindness. Do take
^{ミ- ゼヤ フイズアワト} me there without
^{フエ-ル} fail.

す

「生徒」先生が私
を連れ下されば
両親は先生の御
親切を難有く思
ひます。此度連
れて行きて下さ
い

第二十七課

^{リキリ-} ^{ラフキ-} ^{エツフ} ^{フフ}
Military Officer and one
^{キウ ヒズ フレンツ}
of his Friends.

陸軍士官と其一友との話.

Officer. ^{アイ} I shall ^{ヤル} leave ^{ヤ-ウ} | 「士官」君, 僕は

^{ヒヤ フォ-ア エイ オ-クイン}
here for a certain
^{フレイス アスワト} place about the
^{エンフ オウ ヲス マンス} end of this month,
^{フレンツ} friend.

Friend. ^{イツト イズ ヴエレ-} It is very
^{ヘビ- オウ ム- トフ-} happy of you to
^{オゴ-トフチ-ア} start for the front.
^{アイ アイツル ム- エウオレ-} I wish you every
^{サフセス} success.

Officer. ^{プリーズ} Please ^{フイキ} take
^{オス キ-プセイダ エンフ} this keepsake, and,
^{オウイ- アト} while at the front,
^{ム- ヌイ フイト トク-} you may write to
^{ミ- トフワイス エイ マンス} me twice a month.

Friend. ^ザ The ^{ベヤ} Bear ^{イズ} is

本月の末頃某地
へ出發いたしま
す

「友」戦地に行か
るゝのは大層仕
合せてす。君の
成功をいのりま
す

「士官」何卒此の
記念物を納めて
下さい,そして
出征中は毎月貳
回手紙を下さい

「友」我軍の忠勇

ビートン オール ホロ
beaten all hollow
アト エグオレー バトル バイ
at every battle by
グライント オヴ フロー プレイヴエレー
dint of our bravery
エンフ ローヤルワイ
and loyalty.

アト オ ナイヴァル
Officer. At the Naval
バトル オヴ シー オヴ
Battle of the Sea of
ロシヤン オ
Japan the Russian
コンマンダー イン
Commander-in-
チーフ ワズ タイクン
Chief was taken
プライズナー ソー オツト ワイ
prisoner, so that we
ワイル ハヴ トゥー メイク
will have to make
エ プライズナー オヴ ゼネ
a prisoner of Gen
ラル リネヴィチ
eral Linevich.

アモン マイ ワード
Friend. Upon my word,
オ ゼネラル ワイル
the General will

のために露國は
連戦連敗です

「士官」 日本海の
海戦には敵の司
令長官は捕虜に
成りましたが、
だから余等はリ
ネヴィツチ將軍
を捕虜にせねば
なりません

「友」 確に遠から
ずロゼストグニ

ハヴ オ セーム フェイト
have the same fate
アズ アドミラル ロゼスト
as Admiral Rojist-
ヴェンスキース アト ノ
vensky's at no
グライズタント デイト
distant date.

スルー シワク
Officer. Through thick
エンフ シン ワイ ワイル
and thin we will
マーチ オン ワイル オ
march on till the
ツァール サルレンダース
Tsar surrenders.

イン ユア オン
Friend. In your honour
ワイ インテンド トゥー キヴ
we intend to give
エイ フェアウェル ディナー
a farewell dinner
アト オ セイヨケン オン
at the Seiyoken on
マンデイ ワーク
Monday week.

マネー サンクス
Officer. Many thanks.
アイ シヤル アフランド オツト
I shall attend that

ンスキー提督と
同様な目にリネ
ヴィツチ將軍は
遇ひます

「士官」 露帝の降
伏するまでは如
何なる困難を冒
してもどこまで
も進みます

「友」 來々週の月
曜日にあなたの
爲に送別會を精
養軒で開きます

「士官」 難有う。
出席いたします

ミーティング
meeting.

Friend. ^{ナツ} Now, ^{レツト} let ^{アス} us
take ^{タイキ} a ^ア turn ^{アムン} to ^{トウ-}
Hibiya ^{ヒビヤ} Park. ^{メ-ク}

「友」 サア-日比
谷公園へみじか
い散歩を致しま
せう



第一章
學校
第一課

最モ大切ナル言葉 (一)

School	スクール	學	校
School-things	スクールシングズ	學	校
Book	ブック	書	籍
Note-book	ノートブック	手	帳
Copy-book	コピーブック	習	字

Dictionary	デイクシヨナリー	字	書
Anglo-Japanese Dictionary	アングロ ジャパネーズ デイクシヨナリー	英	和
Japanese-English Dictionary	ジャパネーズ イングリシ デイクシヨナリー	英	和
Slate	スレイト	石	盤
Pen	ペン	筆	筆
Pen-holder	ペンホルダー	ペン	ぢく
Pen-knife	ペンナイフ	鉛	筆
Pencil	ペンシル	鉛	筆
Water-holder	ウォーターホルダー	水	入
Ink	インク	墨	汁
Inkstand	インクスタンド	墨	壺
Ink-stone	インクストーン	硯	石
Paper	ペーパー	紙	
Ruled-paper	ルールトペーパー	罫	紙
Paper-weight	ペーパーウエイト	文	鎮
Blotting-paper	ブロティングペーパー	吸	取

India rubber	インデイヤラバー	こひけし
Tuition-fee	テューイションフィー	授業料
Admission-fee	アドミションフィー	東 修 又ハ 入 場 料
Entrance-fee	エントウランスフィー	
Parcel	パーセル	包
Gaiter	ゲイター	グイトル
Watch	ウオッチ	袖時計
Drawers	ドローアーズ	ズボンシタ
Trousers	トラウザーズ	ズボン
Pantaloons	パンタルーンズ	
Braces	ブレース	ズボン鉤リ
Shirt	シャツ	シャツ
Waist-coat	ウエストコウト	チヨツキ
Coat	コウト	上 衣
Over-coat	オーヴァーコート	外 套
Shoes	シューズ	靴

Over-shoes	オーヴァーシューズ	靴ノ上ニどろ或 ハ温氣ヲ遮ケル タメニ重ニはく 上ノカノ靴
Rubbers	ラバーズ	
Slippers	スリパーズ	上 ぐ つ
Stockings	ストッキングズ	くつした
Socks	ソックス	足 袋
Cap	カッパ	帽
Hat	ハット	帽 子
Hat-horse	ハットホース	帽 子 掛
Handkerchief	ハンカチーフ	はんけち
Napkin	ナプキン	手 ぬ ぎ
Boots	ブーツ	長 靴
Bucket	バケツト	ば け つ
Well	ウエル	井 戸
Well-bucket	ウエルバケツト	釣 籠
Broom	ブルーム	掃 帚
Dust-pan	ダストパン	ち ゝ 取

Towel	タウエル	手拭
Towel-horse	タウエルホース	手拭掛
Terrestrial-globe	テリレストロイヤルグローブ	地球儀
Map	マツブ	地図
Attendance-roll	アテンダンスロール	出席簿
Chalk	チャーク	白ぼく
Chalk-box	チャークボックス	白ぼく入
Stool	ストーール	コシかけ
Bench	ベンチ	コシかけ
Desk	デスク	机
Black-board	ブラックボード	黒板
Eraser	イレーサー	こくばんふき
Pocket-dictionary	ポケット dictionary	袖珍字書

第二課

(1)私ハ (5)行ク (4)ニ (8)學校
 I go to school
 アイ ゴー トゥー スクール

(2)本日 (5)アラザイシカ (1)其處ニ
 to-day. Was there
 トウデー ワズ ゼア

(3)一ノ (4)稽古ハ (2)昨日
 no school yesterday?
 ノー スクール キエズターデー

(1)然リ (2)其處ニ (3)アリシ
 (1) Yes, there was.
 イエス ゼア ワズ

(1)否ナ (2)其處ニ (3)アラザイシ
 (2) No, there wasn't.
 ノー ゼア ワズント

(8)タカ (1)汝ハ (7)持來リ
 Have you brought
 ハブ ユー ブロート

(4)總テノ (5)汝ノ (6)學校道具ヲ
 all your school-things
 オール ユー スクールシングズ

(3)共ニ (2)汝ト
 with you?
 ウイズ ユー

(1)私ハ (8)持テ來タ (6)一ノ
 I have brought a
 アイ ハブ ブロート エイ

(7)袖珍字書ヲ (5)共ニ
 pocket dictionary together-with
 ポケット dictionary トゲー ウイズ

私ハ本日學校ニ行
 キマス。昨日稽古
 ハなかつたデハア
 リマセンカ。

(1) ありました。
 (2) いいえ、ありま
 せませんでした。

あなたハ残ラズあ
 なたノ學校道具ヲ
 持參致シマシタカ。

私ハ袖珍字書ト新
 シキ習字本トヲ持
 參致シマシタ。

(2)私ノ (3)新シキ (4)習字本ト
my new copy-book.
マイ ニュー コピーブック

(1)汝ハ (2)可カラ (9)ズ (7)入ル
You should not enter
ユー シュツド ナツト エンダー

(6)室ニ (5)モツテ (3)汝ノ
the room with your
ゼ ルーム ワイズ ユーア

(4)ゲイトルヲ (2)はきたる
gaiters on.
ゲーターズ オン

(1)我々ハ (8)可カラ (9)ズ (7)入ル
We should not enter
ワイー シュツド ナツト エンダー

(6)室ニ (5)モツテ (3)汝ノ
the room with your
ゼ ルーム ワイズ ユーア

(4)長靴ヲ (2)はきたる
boots on.
ブーツ オン

(1)誰レモ (8)可カラ (9)ズ (7)入
One should not enter
ワン シュツド ナツト エンダー

(6)家ニ (5)モツテ (2)其人ノ
the house with one's
ゼ ハウス ワイズ ワンス

(4)泥よけ靴ヲ (3)はきたる
overshoes on.
オーバーシューズ オン

(1)ドウゾ (5)持来レ (4)私ニ
Please bring me
プリーズ ブリンド マイ

ゲートルヲはいた

まゝ君ハ此ノ室ニ
入ルヲハナリマセ

ス。

私共ハ長靴ヲはい

たまゝ此ノ室ニ入

ルヲハナリマセス

誰デモ泥よけノ靴

ヲはいたまゝ此ノ

家ニ入テハナリマ

セス。

其出席簿ヲ私ニ

(2)其ノ (3)出席簿ヲ
that attendance-roll.
ザット アテンダンスロール

(1)ドウゾ (5)モツテキテクレ
Please bring
プリーズ ブリンド

(4)私ニ (2)其ノ (3)黒板ふきヲ
me that eraser.
ミー ザット イレーター

(1)此 (2)鉛筆削リノ小刀ハ
This pen-knife
ザス ペンナイフ

(3)ワロシイ
will do.
ワイル ドゥー

(1)此 (2)鉛筆削リノ小刀ハ
This pen-knife
ザス ペンナイフ

(4)マセン (3)キレ
won't cut.
ウォント カット

(1)此 (2)はがねノ (3)ペン
This steel pen
ザス スティール ペン

(5)マセン (4)書ケ
won't write.
ウォント ライト

(1)此 (2)机ハ (4)要ス
This desk wants
ザス デスク ワンツ

(3)繕ヲ
mending.
メンディング

持テきて下サイ

其ノ黒板ふきヲ私
ニもつてきて下サ
イ。

此ノ鉛筆削リノ小
刀ハ宜敷御座マス

此ノ鉛筆削小刀ハ
切レマセス。

此ノはがねのペン
ハ書ケマセス。

此ノ机ハ直シテ
らばねばならぬ。

(3) プラズ (5) 持来レ (4) 私ニ
Please bring me
プリーズ ブリンド ミー

(1) 其ノ (2) 地球儀ヲ
that terrestrial globe.
サツト テルレストリリアル グローブ

(6) プラズ (7) カケヨ (4) 汝ノ
Please hang your
プリーズ ハンダ ユーア

(5) 帽子ヲ (3) 上ニ (1) 其ノ
hat on that
ハツト オフ サツト

(2) 帽子掛ノ
hat-horse.
ハツト ホース

(8) ヨキカ (1) 私ハ (7) 取ツテキテ
May I fetch
マイ アイ フェツチ

(5) 私ノ (6) 文鎮ヲ (4) カラ
my paper-weight from
マイ ペーパーウエイト フラム

(2) 私ノ (3) 室
my room?
マイ ルーム

(1) 私ハ (7) 買ヒマシタ
I have bought a
アイ ハヴ ボート エイ

(6) 一冊ヲ (5) ノ (2) 其ノ
copy of that
コピー オフ サツト

(3) 英和 (4) 字書
Anglo-Japanese dictionary.
アンゾホ オヤパネース ディクショナリー

其地球儀ヲ私ノ方

ニ持テ来テ下サイ

其帽子掛ニ君ノ帽

子ヲ御掛ケナサ

イ。

私ハ自分ノ室ヨリ

文鎮ヲ取ツテキテ

ヨイデセウカ。

私ハ英和字書ヲ一

冊買ヒマシタ。

(1) 彼ハ (9) 與ヘシ (8) 私ニ
He gave me
ヒー グーヴ ミー

(4) ツボン釣リ (5) ツボン下
the braces, drawers,
セ ブレーセス フウローアース

(6) 及ビ (7) シヤツヲ (2) 昨
and shirt last
エンフ シヤート ラスト

(3) 夜
night.
ナイト

(1) プラズ (6) 與ヘヨ (5) 私ニ
Please give me
プリーズ ギヴ ミー

(4) 一枚ヲ (3) ノ (2) 罫紙
a sheet of ruled-paper.
エイ シート オフ ルーレドペーパー

(1) 私ハ (10) ナサヌ (9) 忘レ
I do not forget
アイ ドゥー ナット フォルゲット

(8) コトヲ (7) 持来ル (4) 授業料
to bring tuition-fee
トウー ブリンド テューイションフィー

(5) 及ビ (6) 束修ヲ (3) 共ニ
as-well-as entrance fee with
アズウエルアズ エントランソンスフィー ウィズ

(2) 私ト
me.
ミー

(1) 私ハ (7) 立チテ (6) 傍ニ
He is standing by
ヒー イズ スタンディング バイ

あの人ハ昨夜此ノ

ツボン釣リトツボ

ン下トシヤツトヲ

私ニ與ヘマシタ。

ドウゾ野紙ヲ一枚

下サイ。

私ハ授業料及ビ束

修ヲ持参スルヲ

忘レマセヌ。

あの人ハばけつヲ

(5)井戸ノ (4)持ちテ (3)はけつち
 the well with a bucket 手ニ持ツテ井戸ノ
 セ ヲエル ヲイズ エイ スケツト
 (2)手ニ
 in hand.
 イロ スレフ

第三課

最も大切ナル言葉(二)

Director	ダイレクトル	}	校	長
Principal	プリンシパル			
Faculty of the school	ファカルティ オフ ザ スクール	職	員(学校全体ノ)	
Manager	マネイジャー	幹	事	
Waiter	ウエイター	給	仕	
School-servant	スクール サーヴァント	小	使(学校ノ)	
Scholar	スコラー	學	生	
Student	ステューデント	生	徒	
Pupil	ピューピル	生	徒	
Boarder	ボードラー	寄	宿 生	

Dormitory	ドーミトリ	寄	宿 舍
Day-scholar	デースコラー	通	學 生
Graduate	グラデュエート	卒	生
Senior student	シニア ステューデント	上	級 生
Junior student	ジュニア ステューデント	下	級 生
Teacher	ティーチャー	教	師
Professor	プロフェッソル	教	授
Assistant-professor	アシスタント プロフェッソル	助	教 授
Play-ground	プレイグラウンド	運	動 場
Recreation-ground	レクリエーション グラウンド	運	動 場
Gymnastic apparatus	ジムナステイク アパラテス	体	操ノ器械
Horizontal bar	ホリゾンタル バー	か	な 棒
Parallel bars	パラレル バース	並	行 棒
The rings	ザ リングス	吊	環
Ladders	ラダーズ	は	し こ
Vaulting-horse	ヴォールティング ホース	木	馬

スイング
Swing
リープフログ
Leap-frog
タッグワァ
Tug-of-war
ハンディー
Handy-dandy
ホールジャンプ
Hole-jump
アスレチック
Athletic sports
レガッタ
Regatta
ボートレース
Boat-race
フットレース
Foot-race
フェンシング
Fencing
レスリング
Wrestling
ライディング
Riding
スイミング
Swimming
スケイティング
Skating
ローンテニス
Lawn-tennis
ベースボール
Base-ball

ぶらんこ
五ノ肩ニ飛乗リ
テ遊ブ遊戯ノ名
網ひき
手に物をかくし
其をあてまはる
遊
竿飛
運動會
端艇競漕
同上
競走
擊劍
角力
乗馬
水泳
氷すべり
ロンテニス
ベースボール

アーチェリー
Archery
ホースマンシップ
Horseman-ship
カリグラフィ
Caligraphy
ターゲット プラクティス
Target-practico
ミリタリー マヌーヴァーズ
Military manoeuvres
ナヴァル マヌーヴァーズ
Naval manoeuvres
ピクニック パーティー
Picnic party
グリーンハウス
Green-house
ラボラトリー
Laboratory
ケミストリー
Chemistry
ケミカル ラボラトリー
Chemical-laboratory
フィジクス
Physics
エシックス
Ethics
ジオグラフィ
Geography
Japanese ジヤパニース
Chinese チャイニース

射術
乗馬術
書法
射的演習
陸軍演習
海軍演習
遠足會
暖室(ひろ)
實驗室
化學
化學實驗室
物理學
倫理學
地理學
日本語
支那語

History ヒストリー 歴史
 Arithmetic アリスメタイツク 算術
 Mathematics マセマタイツクス 数学
 Algebra アルゼブラ 代数
 Geometry ジオメトウリー 幾何
 Biology バイヲロジー 生物学
 Natural history ナチュラルヒストリー 博物学
 Physiology フイジオロジー 生理学
 Hygiene ハイジイーン 衛生
 Botany ボタニー 植物学
 Zoology ゾオロジー 動物学
 Mineralogy ミネラロジー 礦物学
 Metallurgy メタルラルジ 冶金学
 Science サイエンス 理科
 Scientist サイエンテイスト 理学家
 Botanist ボタニスト 植物学者

Zoologist ゾオロヂスト 動物学者
 Biologist バイヲロジス 生物学者
 Chemist ケミスト 化学者
 Physiologist フイジオロジスト 生理学者
 Geographer ジヲグラファー 地理学者
 Historian ヒストリアン 歴史家
 Mathematician ^{マセマタイシヤン} 数学家
 Magic lantern exhibition ^{マジック ランタレン エキスヒビション} 幻燈會
 Magic lantern View ^{マジック ランタレン ヴュー} 幻燈ノ圖
 Astronomy アストウロノミー 天文学
 Astronomer アストウロノマー 天文学者
 Examination エキザミナーション 試験
 Reading リーディング 讀書
 CIPHERING サイフエリング 計算
 Writing ライティング 作文
 Dictation デイクラーション 書取

Recitation リサイテーション 暗 誦
 インペリアル リスクリプト
 Imperial Rescript }
 オン エデュケーション
 on Education } 教育勅語
 ナショナル アンthem
 National anthem } 國歌 { 日本ニテハ
 ナショナル フラッグ } 君が代
 Nation l flag } 國 旗
 ゼ ズスデー オフ ヒズ インペリアル マゼステイ
 The Birthday of H. I. M. 天 長 節
 ゼ エンペロー
 the Emperor
 ゼ ズスデー オフ ヘル インペリアル マゼステイ
 The Birthday of H. I. M. 地 久 節
 ゼ エンプレス
 the Empress
 フィリアル メイエテイ
 Filial piety } 孝
 ロイヤルテイ
 Loyalty } 忠
 ディシプリン
 Discipline } 規 律
 アカデミック ヤー
 Academic year } 學 年
 ターム エキザミネーション
 Term examination } 學 期 試 験
 アンニユアル エキザミネーション
 Annual examination } 學 年 試 験
 グラデュエーション エキザミネーション
 Graduation examination } 卒 業 試 験

エントランス エキザミネーション
 Entrance examination } 入 學 試 験
 マーク
 Mark } 點 數
 ダイプロマ
 Diploma } 卒 業 證 書
 コングラチュエレートリー アドレス
 Congratulatory address } 祝 辭
 グラデュエーション セレモニー
 Graduation ceremony }
 エキサーサイゼス
 exercises } 卒 業 式
 コンメンサメント
 Commencement }
 パーソナル アンチシデンツ
 Personal anticidents }
 クルリキュラム ヴァイタイ
 Curriculum vitae } 履 歷 書
 クルリキュラム
 Curriculum } 課 程

第 四 課

(1)明日ハ (5)アル (2)我々ノ
 To-morrow is our
 トマロウ イズ アラ
 明日ハ天長節デア
 リマス。
 (3)天皇ノ (4)御誕生日デ
 Emperor's Birthday.
 エンペラトス マゼステイ
 (1)明後日ハ
 The day after to-morrow
 デー アフター トマロウ
 明後日ハ地久節デ
 アリマス。
 (5)アル (2)我々ノ (3)皇后ノ
 is our Empress'
 イズ アラ エンプレス

(4)御誕生日ア
Birthday.
スルスタ

(1)我々ノ (2)運動會ハ
Our athletic sports
アソフ アスレチック スポーツ

(5)マス (4)起リ (3)明日
will come off to-morrow.
ワイル オム オフ トモロウ

(1)我々ノ (2)春季 (3)端艇競漕ハ
Our spring regatta
アソフ スプリング レガッタ

(6)セラレマス (5)舉行
will be held the day
ワイル ビー ヘルド ゼ デー

(4)明後日
after to-morrow.
アフター トモロウ

(1)我々ノ (2)學期試験ハ
Our term examination
アソフ タムム エキサミネーション

(6)セラレマス (5)舉行 (3)來
will be held next
ワイル ビー ヘルド ネクスト

(4)週
week.
ワイーク

(1)彼ハ (6)アル (4)極メテ
He is very
ヒー イズ ヴェリー

(5)熟練テ (3)於テ (2)射術ニ
skilful in archery.
スキルフル イン アーチャーリー

我等ノ運動會は明日
ありませす。

我等ノ春季端艇競
漕會は明後日あり
ませす。

余等の學期試験ハ
來週舉行セラレマ
ス。

あの御方ハ弓ヲ引
クヲガ上手デス。

(1)彼ハ (5)アル (4)熟練シテ
He is at home
ヒー イズ アト ホーム

(3)於テ (2)化學ニ
in chemistry.
イン ケミストリー

(5)シヨクニ (1)我々ヲ (4)行カ
Let us go
レタト アス ゴ

(3)マテ (2)運動場ニ
to the play-ground.
トマテ ゼ プレーグラウンド

(5)試ミニ (4)トテ (3)登ル
Try to ascend
トラライ トテ アセン

(1)其ノ (2)梯子ニ
the ladders.
ゼ ラダー

(1)我々ノ (2)遠足會ハ
Our picnic party
アソフ ピクニック パーティー

(7)セラレマス (6)舉行 (5)於テ
will be held on
ワイル ビー ヘルド オン

(4)月曜日ニ (3)來ル
Monday next.
マンデイー ネクスト

(1)我々ノ (2)校長 (3)及ビ
Our Director and
アソフ ディレクター アンド

(4)總テ (5)他ノ (6)職員ハ
all other faculty of
オール アザー ファкультー オフ

あの御方ハ化學ガ
御上手デス。

運動場ニ行キマセ
ウ。

其のはしこニ上リ
テ御覽。

來月曜日ニ我等ノ
遠足會ガアリマ
ス。

校長其他職員全体
ハ只今其化學實驗

(11)アル (7)今マ
the school are now
ゼ スクールの アール ナウ

(10)於テ (8)其ノ (9)化學實驗
in that chemical
イン イツト ケミカル

室ニ
laboratory.
ラボラトリー

(1)彼ハ (3)アル (2)助教授デ
He is an assistant-
ヒー イズ アン アシスタント

(4)而シ (10)言ハル
professor and is said
プロフェッサー エンド イズ セツド

(9)ベシ (8)アル (7)練熟レテ
to be versed
トゥー ビー ヴァースト

(6)於テ (5)冶金學ニ
in metallurgy.
イン メタルルルジ

(1)彼ハ (6)受取リシ
He received a
ヒー リーヴド エイ

(5)卒業證書ヲ (4)於テ (2)其ノ
diploma at that
ダイプロマ アト イツト

(3)卒業式ニ
graduation ceremony.
グラデュエーション セレモニー

(1)彼ハ (6)讀ミマス
He reads a
ヒー リーズ エイ

室ニわらつしやい

ます。

あの人ハ助教授デ

冶金學ノ上手十人

デス。

其卒業式ノ際彼ハ

卒業證書ヲ受取リ

マシタ。

あの人ガ卒業生ニ

(5)祝辭ヲ (4)前テ
congratulatory address before
コングラチュエートリー アドレス ビフリア

(2)其事ノ (3)卒業生ノ
those graduates
ゾーズ グラデュエーツ

(1)校長ハ (9)企ツル
The Director intends
ゼ ディレクター インテンズ

(8)トナ (7)爲サン (5)少シノ
to make a slight
トゥー モーキ エイ スライト

(6)變化ヲ (4)於テ (2)我々ノ
change in our
チェンジ イン アワー

(3)課程ニ
curriculums.
クリキュラムズ

(1)彼等ハ (3)奏ヒシ
They played the
ゼー プレイド ゼ

(2)君ガ代ヲ
national anthem.
ナショナル アンセム

(1)彼ハ (3)アル (2)通學生デ
He is a day-scholar
ヒー イズ エイ デー スコラー

(4)而シ (5)今マ (8)住ス (7)於テ
and now lives in
エンド ナウ リヴズ イン

(6)神田ニ
Kanda.
カミダ

對ノ祝辭ヲ讀みま
す。

校長ハ我々ノ課程
ヲ少シ變化セント
ノ意アリ。

彼等ハ君ガ代ヲ奏
シマシタ。

あの人ハ通學生デ
目下神田ニ住ツテ
居マス。

(1)彼ハ (3)アル (2)寄宿生テ
He is a boarder
ヒー イズ エイ ボーダー

(4)面ノ (7)研究ス (6)英語ヲ
and studies English
エン アンド スタディーズ イングリッシュ

(5)真面目ニ
in earnest.
イン アーナスト

(1)私ハ (6)好ム (2)植物學
I fancy botany,
アイ ファンシー ボタニー

(3)天文學 (4)及ビ (5)物理學ヲ
astronomy, and physics.
アストロノミー エン アンド ファイズクス

(1)海軍大演習ハ
The naval manœuvres
セ ナヴァル マニューヴァース

(4)セラレマス (3)舉行 (2)其處テ
will be held there.
ウィル ビー ヘルド ゼア

(5)セシメヨ (1)我々ヲ (4)從事
Let us engage
レット アス エンゲージ

(3)於テ (2)網ひきニ
in a tug-of-war.
イン エイ タグ オフ ウォー

(4)いつ (7)マスカ (1)我々ノ
When will our
ウェン ウィル アワー

(2)卒業 graduation (3)試験ハ examination
グラジュエーション エキザミネーション

彼ハ寄宿生テ真面目ニ英語ヲ研究シテ居マス。

私ハ植物學天文學及ビ物理學ガ好きです。

海軍大演習ハ其處デ舉行セラレマス。

我等一同ハ網曳ヲ致シマセウ。

卒業試験ハいつ舉行サレマスカ。

(6)サレ (5)舉行
be held?
ビー ヘルド?

(1)我々ハ (10)揚ケマス
We hoist
ワイー ホイスト

(8)我々ノ (9)國旗ヲ
our national flags
アワー ナショナル フラグズ

(7)傍ニ (5)我々ノ (6)戸ノ
at our doors
アット アワー ドアーズ

(4)於テ (2)其 (3)日ニ
on that day.
オン That デイ

(1)我々ノ (2)擊劍ノ先生ハ
Our fencing-master
アワー フェンシング マスター

(5)きます (4)此處ニ (3)本日
will-come here to-day.
ウィルカム ヒア トゥー デイ

(1)幻燈會ガ
A magic lantern
エイ マジック ランタン

(4)舉行セラレシ
exhibition was given
エキシビション ワズ ギヴン

(3)於テ (2)講堂ニ
in the lecture hall.
イン ゼ レクチャー ハール

(4)一人ハ (3)ノ (1)我々ノ
One of our
ワン オフ アワー

其日私共ハ毎ニ國旗ヲ揚ゲマス。

共ノ擊劍ノ先生ハ本日此處へ御出ニ成リマス。

其講堂デ幻燈會ガアリマシタ。

私共ノ先生ノ一人

(3) 教師 teachers
テイ-チヤ-ス

(9) 取リテ took
トツテ

the
セ

ガ其圖ノ説明ノ勞

(8) 勞ト trouble
トツツト

(7) ノ of
ヲ

(6) 説明スルヲ explaining
エキスプレ-ン-グ

ヲ取ラレマシタ。

(5) 圖ヲ the views.
セ

(1) 私ハ I
アイ

(4) 讀ム read
リーフ

the
セ

私ハ毎朝教育勅語

(3) 教育勅語ヲ Imperial Rescript
インペリアル リスクリプト

on
オン

ヲ讀ミマス。

(2) 毎朝 Education every morning.
エデュケ-ション エヴリ- モーニング

(1) 彼ハ He
ヒー

(8) アル is
イズ

(7) 熟練テ skillful
スキルフル

あの人ハ讀書計算

(6) 於テ in
イン

(2) 讀書 reading,
リーディング

(3) 計算 ciphering
サイフエ-ン-グ

及ビ書クヲガ達者
デス。

(4) 及 and
エンフ

(5) 書クヲ writing.
ライティング

(1) 彼ハ He
ヒー

(6) 差出セシ sent
セント

(4) 彼ノ in his
イン ヒズ

昨夜あの人ハ其履

(5) 履歷書 curriculum vitae
カリキュラム ヴァイタイ- ユス

(2) 昨
ラスト

履書ヲ差出シマシ

(3) 夜 night.
ナイト

タ。

(1) 彼ノ His
ヒズ

(2) 忠 loyalty
ロ-ヤルティ-

(3) 及ビ and
エンフ

あの人ノ忠孝ナル

(4) 孝ハ filial piety
フィリヤルパイエティ-

(9) セラル are
アハル

(8) 譽讚 admired
アブマイヤ-ド

ヲハ我等一同ニ感
歎スル處デアリマ
ス。

(7) 因テ by
バイ

(5) 我々 us
アス

(6) 誰ユ all.
コト

私ハ毎朝教育勅語

(1) 彼ハ He
ヒー

(7) アル is
イズ

(6) 巧テ skillful
スキルフル

(5) 於テ in
イン

彼ハ其ノ木馬ヲ飛

(4) 飛越スヲ leaping over
リープ-イン-グ

(2) 其 that
テ-ダ-ア

(3) 木馬ヲ vaulting
ヴァウ-ル-ティ-ン-グ

越スヲガウマ。

horse.
ホース

(1) 彼ハ He
ヒー

(4) つかみマシタ took-hold-of that
トツクホ-ルド-フ

彼ハ其ノかな棒ヲ

(3) かな棒ヲ horizontal bar.
カナバ-ン-ダ

つかみました。

(1) 彼ハ He
ヒー

(6) つかみし grasped
グラスプ

the
セ

彼ハ兩手ヲ吊環ヲ

(5) 吊環ヲ rings
リン-グ

(4) 於テ in
イン

(2) 兩 both
ボ-ス

(3) 手ヲ hands.
ハ-ズ

つかみました。

(1)彼ハ (3)アル (2)上級生デ
He is a senior
ヒー イズ エイ シニア

student.
スチューデント

(1)彼ハ (3)アル (2)下級生デ
He is a junior
ヒー イズ エイ ジュニア

student.
スチューデント

(1)彼ハ (6)アル (4)顕々たる
He is an eminent
ヒー イズ アン エミネント

(5)生物學者デ (3)ノ (2)當時
biologist of the time.
バイオロジスト ノフ オフ タイム

(6)シメヨ (1)我々ナソ (5)行カ
Let us go
レット アス ゴー

(4)マテ (2)其處ノ (3)むろニ
to yonder green-house.
トウヤンダー グリーンハウス

(1)彼ハ (5)アル (4)上手デ
He is at home
ヒー イズ アット ホーム

(3)於テ (2)書法ニ
in caligraphy.
イン カリグラフィ

(1)彼ハ (4)守リマス (3)規律ヲ
He observes discipline
ヒー オブザーブズ ディシプリン

彼ハ上級生デアリ
マス。

彼ハ下級生デアリ
マス。

彼ハ當時顕々タル
生物學者デアリマ
ス。

其處ノむろニ行キ
テ見マセウカ。

彼ハ書法ニ巧ナ
リ。

あの人ハ嚴密ニ規

(2)嚴密ニ
to-the-letter.
トウザレター

律ヲ守ル御方デ
ス。

第二章

家庭

第一課

最モ大功ナル言葉(一)

Home	ホーム	家庭
Home education	ホームエデュケーション	家庭教育
Father	ファザー	父
Mother	マザー	母
Parent	ペヤレント	親
Parents	ペヤレンツ	両親
Paternal feeling	パターナル フィーリング	父子ノ情
Grand-father	グランパ ファーザー	祖父

グランド マザー
Grand-mother

グレート グランド ファーザー
Great grand-father

グレート グランド マザー
Great grand-mother

Brother ブラザー

Sister シスター

Half-brother ハーフブラザー

Step-father ステップファーザー

Step-mother ステップマザー

Uncle アンクル

Aunt アーント

Nephew ニフュー

Niece ニース

Son サン

Daughter ドーター

Boy ボーイ

Girl ガール

祖母

曾祖父

曾祖母

兄弟

姉妹

異父兄弟

繼父

繼母

伯叔父

伯叔母

甥

姪

息子

心女

男兒

女兒

Child チャイルド 子供

Children チルドレン 子供(二人或二人以上)

Baby ベビー 赤子

Nurse ナース 乳母

Female-nurse フェーメールナース 看護婦

Doctor ドクトル 醫師

Physician フイジシャン 同上

Dentist デンティスト 齒醫

Ophthalmic hospital ^{オプタルミツル} ^{ホスピタル} 眼科病院

Hospital ホスピタル 病院

Cardiograph カーデイラグラフ 聴診器

Gynecology ジネコロジー 婦人科

Gynecologist ジネコロジスト 婦人科醫

Midwife ミドウワイフ 産婆

Midwifery ミドウワイフエリー 産科

Obstetrics オブストラトリクス 産科

Veterinarian ヴエテリナーリヤン 獣 醫
 Surgion サルジヨン 外 科 醫
 Head-ache ヘツドエイク 頭 痛
 Heart-disease ハートデイスイーズ 心 臓 病
 Abdominal-fever ^{アブドミナル} ^{フイバー} }
 Typhoid-fever ^{タイフオイド} ^{フイバー} } 腸 熱 症
 Typhus タイフス 熱 症
 Phthisis フタイジス 肺 炎
 Consumption コンサンプション 肺 病
 Diphtheria デイフテリヤ 喉 症
 Diarrhea ダイアルリヤ 痢 疾
 Pleurisy プリユーリジー 肋 膜炎
 Palsy ポールジー 中 風
 Chilblain チルブレイン 霜 や け
 Scald スコールド や け ど
 Virus ヴァイラス う む

Boil ボイル できもの
 Bandage バンデージ 繃 帯
 Tooth トース 歯
 Teeth ティース 齒 (二本或二本以上)
 Eye-teeth アイタイース 糸 子 り ば
 Finger フインガー 指
 Index-finger ^{インデックス} ^{フインガー} 人 さ し ゆ び
 Thumb サム 親 ゆ び
 Hand ハンド 手
 Fist ファイスト に ぎ り こ ぶ し
 Palm パーム 手 の ひ ら
 Palmistry パーミストリー { 手 の ひ ら に て 吉 凶 ナ
 判断スル術
 Wrist リスト 手 く び
 Arm アーム 腕
 Shoulder ショールダー 肩
 Head ヘッド 頭

Ear	イーア	耳
Ear-wax	イーアウオクス	耳くろ
Eye	アイ	眼
Eye-brow	アイブロー	まひげ
Eye-lid	アイリッド	まぶた
Temple	テンプル	ひたい
Nose	ノーズ	鼻
Nostril	ノストウリル	鼻ノあな
Mouth	マウス	口
Mustache	マスタース	口ひげ
Whisker	ホイスカー	はうひげ
Lips	リップズ	唇(上下ノ)
Tongue	タング	舌
Brain	ブレイン	脳
Heart	ハート	心
Liver	リヴァー	肝

Kidneys	キドネース	腎	臓
Lungs	ラングス	肺	(左右ノ)
Foot	フート	足	
Feet	フイート	足	(兩足)
Leg	レッグ	脚	
Stomach	ストマック	胃	
Hair	ヘア	髪	
Back	バック	背	な
Side	サイド	脇	
Pleura	フリニューラ	肋	膜
Piles	パイルズ	痔	病
Itch	イツチ	ひ	せん
Nausea	ノーシア	嘔氣	(はきたき心持スルヲ) (又ハ船ニテ酔フヲ)
Trachea catarrh	トウレキア カタール	氣管支	カタル
Rheumatism	リューマチズム	リューマチス	
Fever	フィーヴァー	熱	病

Swoon スウーン 眩暈氣絶
 Leprosy レプロザー 癩病
 Cataract カタラクト ろこひ
 Friend フレンド 友
 Friendship フレンドシツプ 友情
 Relation リレーション 親戚
 Dysentery デイセンテリニ 赤痢
 Intestines catarrh インテスタインズ カタル 腸カタル
 Chorela コレラ これら
 Measles ミーズルズ はしか
 Hydrophobia ハイドロフラービヤ 恐水病
 Cold コールド 風邪
 Febrifuge フェブリフュージ 熱さまし
 Lotion ローション 洗ひくすり
 Pill ピル 丸薬
 Prescription プレスクリプション 処方箋

Tooth-ache トウース エーク 歯痛
 Nostrum ノストラム 賣藥
 Pharmacology ファーマコロジー 藥學
 Dispenser デイスペンサー 藥劑師
 Diagnosis ダイアグノーシス 診断書或ハ診察
 Pathology パソロジー 病理學
 Diagnostics ダイアグノスティックス 診断學
 Servant サーヴァント 僕
 Dependant デイペンダント 厄介ユナリチレルモノ
 Patron パトウロン 保護者
 Protege プロテージ 保護サルモノ
 Minor マイノル 未成年者
 Adult アダルト 丁年者
 Orphan ヲルフアン 孤兒

第二課

(1)本日 (2)私ノ (3)父ハ
To-day my father
トウデー マイ ファーダー

(10)マス (9)行キ (8)ニ
will go to the
ワイル ゴー トウデー

(7)眼科病院 (6)共ニ
Ophthalmic Hospital with
オプソタルミタル オスビタル ワイズ

(4)私ノ (5)兄ト
my elder-brother.
マイ エルダラー ブラザー

(1)明日 (2)私ノ (3)母ハ
To-morrow my mother
トウモロウ マイ マザー

(10)マス (9)見舞ヒ (7)彼女ノ
will visit her
ワイル ヲイワラフ ハー

(8)親ヲ (6)共ニ (4)私ノ
parents with my
ペアレンツ ワイズ マイ

(5)妹ト
younger sister.
ヤンガー シスター

(3)一 (4)友ハ (2)ノ (1)私シ
A friend of mine
エイ フレンド オフ マイン

(6)居リ居レシ (5)肋膜炎ニ
has pleurisy.
ハズ プリーユリザー

本日私ノ父ハ兄さ
んヲ連レテ其眼科
病院ニ行キマス。

明日私ノ母ハ妹ヲ
連レテ母ノ兩親ノ
許ニ行キマス。

私ノ一友ハ只今肋
膜炎ニ罹ツテ居マ
ス。

(6)爲スカ (1)醫者ハ (5)訪問シ
Does a doctor visit
ドズ エイ ドクター ヲイワラフ

(4)彼ヲ (2)毎 (3)日
him every day?
ヒム エヴリデー

A (2)醫者ハ (4)訪フ
physician attends
エイ ファイジシャン アテンズ

(3)彼ヲ (1)隔日ニ
him every other day.
ヒム エヴリーアザー

(4)何テ (5)アルカ (1)汝ノ
What is your
ウツツト イズ ムーア

(2)甥ノ (3)病ハ
nephew's complaint?
ニフニース コンプレイント

(4)何テ (5)アルカ (1)彼ノ
What is his
ウツツト イズ ヒズ

(2)姪ノ (3)病氣ハ
niece's illness
ニエース イルネス

(3)何が (4)病テスカ (1)彼女ノ
What ails her
ウツツト エイルズ ハー

(2)祖父ハ
grand-father?
グランドファーダー

(5)何テ (6)アルカ (4)心配ハ
What is the matter
ウツツト イズ ム

御醫者さんハ毎日
あの人ノ處ニ行キ
マスカ。

隔日ニ御醫者さん
ハあの人ノ處ニ参
リマス。

あなたノ甥ノ御病
氣ハなんですか

あの人ノ姪ノ御病
氣ハ何デスカ。

あの人ノ御方ノ祖
父さまノ御病氣ハ
何デスカ。

其ノ孤兒ガどうし

(3) 對ノノ (1) 其 (2) 孤兒ヲ
with that orphan?
ワイズ ウヂト ラシフアン

(1) 彼ハ (3) 罹ル (2) 氣管ヲカ
He has trachea-
ヒー ハズ トラレーキヤ

カタル
catarrh.
カタル

(1) 彼ノ (2) 子供ハ (4) カハル
His child has the
ヒズ チヤイルル ハズ セ

(3) ハヤカニ
measles.
メイスク

(1) 彼ノ (2) 婢僕ハ (4) カハル
His maid-servant has
ヒズ ノーブ ヲーダフアンル ハズ

(3) 痔瘻ヲ
the piles.
セ マイスク

(1) 彼女ハ (3) カハル
She has
シー ハズ

(2) シモヤケニ
chilblain.
チルブレイン

(1) 彼ノ (2) 異父兄弟ハ
His half-brother
ヒズ ハーフ ブラザー

(4) 引キレ (3) 風ヲ
took cold.
トック コールド

たのですか。

あの人ハ氣管支カ
タルニ罹ツテ居マ
ス。

あの人ノ子供ハ只
今はしかヲやつて
居マス。

あの人ノ下婢ハ痔
病デス。

あの人ハ凍傷(し
もやけ)ヲして居
マス。

あの人ノ異父兄弟
ハ風邪デス。

(1) ドウゾ (6) セシメヨ (2) 私ヲ
Please let me
プリーズ レット めー

(5) 見 (3) 其ノ (4) 處方箋ヲ
see that prescription.
シー ウヂト プレスキリプシヨシ

(1) 彼ハ (5) ムラホレ (2) 彼ノ
He had his
ヒー ハット ヒズ

(3) 眼ヲ (4) 綿帯ヲシテ
eyes bandaged.
アイズ マンダーウツ

(1) 彼女ハ (3) アル (2) 産婆ヲ
She is a midwife
シー イズ ヨイ ミツウツシフ

(4) 而シテ (10) 住ス (9) ニ (8) 本郷
and lives in Hongo
エンフ ヴラス イン オンゴ

(7) 共ニ (5) 彼女ノ (6) 祖母ト
with her grand-
ワイズ ハー グランド

mother.
マザー

(1) 彼ノ (2) 額ハ (4) アル
His temple is
ヒズ テンプレ イズ

(3) 廣ク
wide.
ワイド

(1) 彼ハ (4) 有ス (2) 大ナル
He has a big
ヒー ハズ イズ ビグ

私ニ其處方箋ヲ見
セテ御覽。

あの人ハ其ノ兩方
ノ眼ニはうたいヲ
巻テむらひマシタ
あの人ノ人ハ産婆
ヲ其祖母ト本郷ニ
居マス。

あの人ノひたいハ
廣い。

あの人ノ鼻ハ大き

(3)鼻ヲ
nose.
ノーズ

(1)彼ハ (5)アル (7)奇麗ニレツ
He is clearing
ヒー イズ クリヤリツク

(5)彼ノ (6)耳ヲ (4)カラ (2)少許ノ
his ears from some
ヒー イヤース フロム サム

(3)耳くそ
ear-wax.
イヤークソツクス

(5)セシメヨ (1)私ヲ (4)見
Let me see
レット ミー レー

(2)汝ノ (3)手ノひらヲ
your palm.
ユア パーム

(6)爲スナ (5)開キ (3)汝ノ
Don't open your
ドント オープン ユア

(4)口ヲ (1)ソツナニ (2)廣ク
mouth so wide.
マウス ソー ワイド

(9)レメヨ (1)我ヲ (8)見舞ハ
Let us visit
レット アス ヴィジツト

(7)親戚ト (6)ノ (5)我々
a relation of ours
エー リレーシヨン オフ アワース

(4)於テ (3)月曜日ニ (2)來ル
on Monday - next.
オン マンデイー ナクスト

い

あの人ハ耳くそヲ

取ツテ居マス。

君の手ノひらヲ見

セテ御覽。

ソツナニ口ヲ廣ク

開カナイテ下サ

イ。

私共ハ來月曜日ニ

我等ノ親戚ヲ訪テ

マセウ。

(1)彼ハ (4)アル (3)齒醫者ア
He is a dentist
ヒー イズ エー デンタイスト

(2)有名ナル
of-note.
オフノウト

(1)私ハ (6)感ズル (5)苦痛ヲ
I feel pain
アイ フィール ペイン

(4)於テ (2)私ノ (3)背ニ
on my back.
オン マイ バック

(1)私ハ (7)感ズル (6)痛ヲ
I feel pain
アイ フィール ペイン

(5)於テ (2)私ノ (3)左ノ (4)脇ニ
on my left side.
オン マイ レフト サイド

(1)彼ハ (7)感ズル (6)痛ヲ (5)於テ
He feels pain on
ヒー フィールズ ペイン オン

(2)彼ノ (3)右ノ (4)脇ニ
his right side.
ヒズ ライト サイド

(1)彼ハ (5)ムラヒシ (2)彼ノ
He got his
ヒー ガツト ヒズ

(8)剃りけテ (4)すつて
whiskers shaved.
ホイスクァース セーブド

(1)私ハ (3)感ズル (2)嘔氣ヲ
I feel nausea.
アイ フィール ナウゼア

彼ハ有名ナル齒醫

者デアリマス。

私ノ背がいたい。

私ハ私ノ左脇がい

たい。

彼ハ其右脇がいた

い。

あの御方ハ其頬ひ

げヲすつてひらひ

ました。

私ハはきまうた。

(1)私ハ I アイ (3)感ズル feel フイーロ

(2)目まいスル體ニ giddy. ヴァディー

(1)彼ハ He ヒー (4)火傷ヲアトリシ was scalded ヴオズ スコールドザツ

(2)昨 last ラスト (3)夜 night ナイト

(1)彼ハ He ヒー (3)アル is イズ (2)未成年テ a minor ムー マイノル

(4)而ノ and エンフ (7)能ハズ cannot グンナツト (6)喫煙スルヲ smoke スモーグ

(5)全ク at-all. フトオード

(1)我々ハ We ヴイー (3)アル are アール (2)丁年者ヲ adults アダルト

(4)而ノ and エンフ (9)可ナリ may ムー (8)喫煙シテモ smoke スモーグ

(7)ナラバ if イフ (5)我々が we ヴイー (6)好ム like トウ

(1)彼ノ His ヒズ (2)姉ハ elder エルダ (4)アル is イズ

私ハ目がもう様だ。

あの人ハ昨夜やけどヲ致シマシタ。

彼ハ未成年ダカラ全ク喫煙シテハナラス。

我々ハ丁年ダカラすきなら喫煙シテモよい。

あの人ノ姉さんハ

(3)看護婦ヲ a female nurse エー フィーメール ナルズ (5)而シ and エンフ

(8)住ス lives イヅス (7)ニ at アト (6)赤十字 the Red Cross レツフ クロス

病院 Hospital. ホスピタル

(1)彼ハ He ヒー (4)アル is イズ (2)高名ナル an eminent アン エミネント

(3)薬學士ヲ a pharmacist ヲアーマコロジスト (5)而シ and エンフ (9)滞在ス puts プツツ

(7)其 up アツツ (8)宿屋ニ at that ホテル (6)今マ now. ナラ

(1)彼ハ He ヒー (8)アル is イズ (6)よく well ヴェル

(7)識レテ versed ヴァースフ (5)ニ in イン (2)病理學 pathology パソロジー

(8)及ビ and エンフ (4)診断學 diagnostics. ダイヤグノスティクス

(3)奇体ニモ Strange ストラレンジ (2)ベテ to トウ (1)言フ say, ヴー

(4)其ノ that ヴツト (5)醫士ハ doctor フクトル (11)忘レシ forgot フォルゴツト

看護婦ヲ赤十字病院ニ居マス。

あの人ハ名高キ藥學士デ今マハ其宿屋ニ居マス。

あの人ハ病理學及ビ診断學ニ妙ヲ得テ居ル御方デス。

ねかしな事ヲ言フ様デスケレドモ其

(10) 7チ to ト
 (9) 持來 bring フ
 (7) 彼ノ his ヒ
 (8) 聴診器 cardiograph カ
 (6) 此處 here. ヒ

ノ 醫者さんハ 此處
 ニ 聴診器ヲ 持參ス
 ルヲ 忘レタノデ
 ス。

第三課

最モ大切ナル言葉 (二)

Kindergarten	キンデルガルテン	幼稚園
Veranda	ヴェランダ	縁がは
Vestibule	ヴェステイビユール	立
Portico	ポーチコー	
Porch	ポーチ	
Gate	ゲイト	門
Entrance	エンウランス	入口
Threshold	スレシヨールド	しきり
Pillar	ピラー	柱

Column	コラム	柱
Post	ポスト	柱
Shutter	シャッター	ふすま
Cupboard	カブボード	戸だな
Hanging-scroll	ハンギングスクロール	かけもの
Autograph	オートグラフ	親筆
Portrait	ポर्टウレート	肖像
Album	アルバム	寫真挾
Photograph	フォトグラフ	寫真
Photographer	フォトグラフアー	寫真師
Likenenss	ライクネス	寫真
Incense-burner	インセンスバーナー	香爐
Incense-stick	インセンススティック	線香
Benzoin	ベンゾイン	安息香
Bamboo-sprout	バンブースプラウト	筍
Garden	ガードウン	園

Miniature lake	ミニエーテューアレイキ	泉	水
Pine-tree	パイントウリー	松	樹
Plum-tree	プラムトウリー	梅	樹
Bamboo	バンブー	竹	
Plum blossom	プラムプロソム	梅	花
Cherry-tree	チェリートウリー	櫻	ノ木
Cherry-blossom	チェリープロソム	櫻	ノ花
Camellia-japonica	カメルリアボンカ	椿	
Kerria-japonica	ケルリヤジヤボニカ	山	吹
Orchid	オーチツド	蘭	
Wistaria	ウイスタリヤ	藤	の花
Artemisia	アーテムシヤ	よもぎ	
Iris	アイリス	あやめ	
Azalea	アゼーリヤ	つゝし	
Sweet flag	スイートフラッグ	菖蒲	
Paulownia imperialis	インペリアルリス	桐	

Chrysanthemum	クリサンシーマム	菊	
Willow	ウイロー	柳	
Maple tree	メイブルトウリー	槭	樹
Maple leaves	ノーブルリーヴズ	楓	葉
Snow	スノー	雪	
Rain	レイン	雨	
Frost	フロスト	霜	
Showder	シャワー	驟	雨
Drizzle	ドウリズル	細	雨
Thunder	サンダー	雷	
Lightning	ライ番ニング	電	光
Earthquake	アースクエーク	地	震
Tidal wave	タイダルウェイヴズ	つな	み
Fire	ファイヤー	火	事
Conflagration	コンフラグレーション	大	火
Incendiarism	インセンダイアリズム	放	火

Incendiary	インセンダイアリ	放 火 者
Wind	ウインド	風
Pomegranete	ボメグラナート	ざ くら
Loquat	ローカツト	枇 杷
Persimmon	パーシモン	柿
Grape	グレープ	葡 萄
Vine-trellis	ヴァイントレリス	葡 萄 棚
Peach	ピーチ	桃
Apple	アップル	林 檎
Chestnut	チエスナツト	栗
Apricot	アブリコツト	も ん ず
Pear	ペヤ	梨
Radish	ラデイシ	大 根
Cucumber	キューカンバー	胡 瓜
Carrot	カルロツト	にんじん
Pumpkin	パンブキン	かぼちや

Egg-plant	エツグプラント	茄 子
Potato	ポテート	じゃがたら芋
Sweet potato	スイートポテート	さつまい芋
Sugar	シュガー	砂 糖
Vineger	ヴィネガー	醋
Soy	ソーヤ	醬 油
Mustard	マスタード	か ら し
Ginger	ジンジャー	しやうが
Yam	ヤム	やまの芋
Bean-curd	ビーンカルド	豆 腐
Bean-soup	ビンスープ	み ろ 汁
Eel	イール	う な ぎ
Carp	カープ	鱈
Flounder	フラウンダー	ひ ら め
Red snapper	レッドスナバー	赤 鯛
Black snapper	ブラックスナバー	黒 鯛

Oyster	オイスター	か	き
Lobster	ロブスター	え	び
Mackerel	マケレル	青	魚
Salmon	サーモン	鮭	
Dried bonito	ドライトボニート	鰹	節
Crab	クラップ	か	に
Herring	ヘリング	に	しん
Gold-fish	ゴウルドフィシ	金	魚
Fish	フィシ	魚	
Scrap-book	スクラップブック	抜	萃帳
Newspaper	ニュースペーパー	新	聞紙
Brazier	ブレイジャー	火	鉢
Fire-box	ファイヤーボックス	火	鉢
Fan	ファン	扇	
Pivot	ピヴォット	か	なめ(馬子等)
Nail	ネイル	く	ぎ

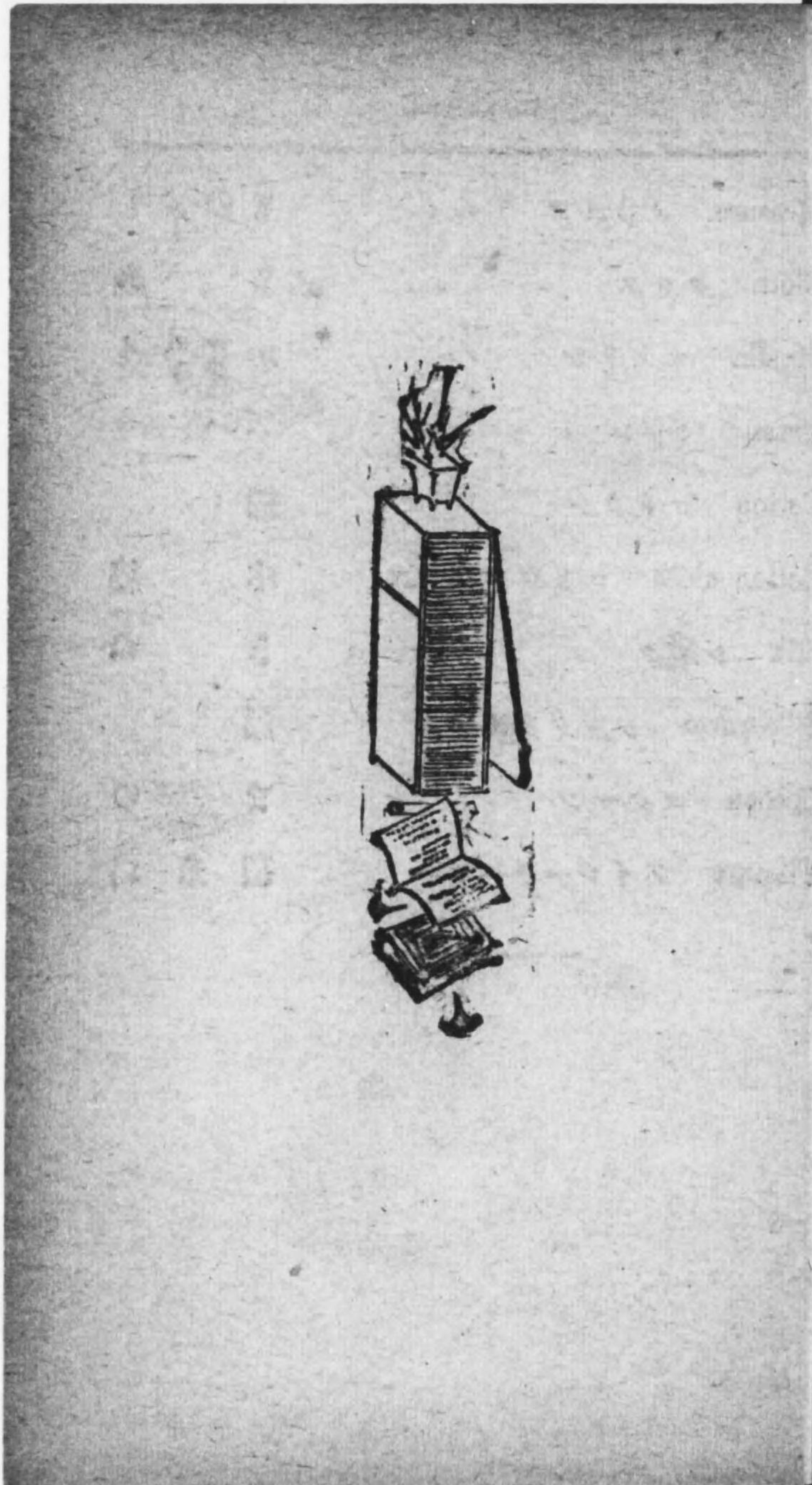
Peg	ベツグ	木	のくぎ
Pincers	ピンサース	く	ぎ抜き・毛抜
Shears	セヤース	は	さみ
Drill	ドウリル	き	り
Hammer	ハンマー	槌	
Plane	プレイン	か	んな
Saw	ソー	の	こぎり
Shavings	セーヴィングズ	か	んなくず
Shingle	シングル	屋	根板
Roof	ルーフ	屋	根
House	ハウス	家	
Building	ビルディング	建	物
Rubbish	ラビシ	ご	み
Mat	マツト	た	ゝみ
Burdock	バルドック	ご	ぼろ
Onion	ラニオン	ね	ぎ

Banana	バナ	芭蕉の實
Tea	ティー	茶
Coffee	カフェー	珈琲
Drink	ドリンク	飲もの
Beverage	ビヴエレーヴ	飲料
Beer	ビーヤ	麥酒
Wine	ウワイン	葡萄酒
Claret	クラレット	赤葡萄酒
Champagne	シャンペン	シャンペン
Whiskey	ホイスキー	ホイスキー
Tray	トウレー	盤
Tea-things	ティーシングズ	茶道具
Tea-pot	ティーポット	茶須
Tea-cup	ティーカップ	茶碗
Salt	ソールト	鹽
Satin	サティン	絹子

Silk-lining	シルクライニング	絹うら
Kersey mere	カージーマーヤ	絹紗
Rugs	ラッグズ	氈
Dry goods	ドライグーズ	呉服物
Draper	ドレーパー	呉服屋
Girdle	ガードウル	帯
Cuffs	カフス	カフユ
Cloisonne ware	クロイツシウニヤ	七寶焼
Lacquer ware	ラツカーウエヤ	漆器
Neck-cloth	ネツククロ	くびき
Showl	ショール	肩かけ
Clothes-horse	クローズマース	着物の掛
Dose	ドース	一服
Medicine	メヂシン	薬
Cup	カップ	さかづき
Glass	グラス	グラス

Pepper	ペパー	胡椒
Bread	ブレッド	パン
Butter	バター	バター
Jam	ジャム	ジャム
Honey	ハニー	蜂蜜
Soup	スープ	スープ
Fork	フォーク	肉さし
Spoon	スプーン	さし
Saucer	ソーサー	小皿
Plate	プレート	皿
Table-cloth	テーブルクロス	食卓かけ
Worsted	ウオーステッド	毛糸
Thimble	シンブル	ゆびぬき
Work-box	ウワルクボックス	針箱
Thread	スレッド	糸
Needle	ニードル	針

Measure	メジャー	ものさし
Cloth	クロス	きれ
Muslin	マズリン	かなざん
Bezan	ベザン	天じくめん
Cotton	コットン	綿
Cotton cloth	コットンクロス	木綿
Silk	シルク	さぬ
Silk-worm	シルクウオーム	口
Cocoon	コクーン	空ゆ
Filature	フィレータリー	製糸場



五分間演說辭典

五分間演説辞典

其一 緒論

文明の社會は言論の時代である。されば吾人が社會生活を營んで行く上に於ては、是非とも自己の思想と感情とを遺憾なく他に發表する手段を研究して置かねばならぬのである。自己の思ふ事を他に

發表する事の出來ぬ者は啞者である。又啞者でなくとも、自己の思ふ事を公衆の前に出て云ひない人がある。手近い例を擧ぐれば、茲に二三十人の會合があるとすると何か其の會合に於て協議する事があると假定して、其處に列した大半以上の人は、必ず「諸君の宜しいやうに」と云ふ事を云つて、或小數の人の意見に一任して仕舞ふ。然るに其の小數の人の意見に依つて決定した事項に就て、必ず後日になつて、二三人も集れば、「私は彼の時に斯う思つて居たのでしたが」、「私は實に大反對だつたのでしたが」、「私には私の考へがあつたのでしたが」と云ふやうな事を聽くのである。斯く各自に

相當の意見を有して居つたならば、何故發表をしなかつたのであらう。何故自分の思ふ事を遺憾なく述べなかつたのであらう。これ即ち自己の思想と、感情とを他に發表する手段を知らぬからである。自己の思想意見を發表せざるが爲めに一面に於て有形上、無形上に於て非常な損害を來す場合も多い事は、讀者諸氏の能く熟知せらるゝ事實が世間には多いであらう。故に吾人が社會と云ふ一の大なる團體の一人として生活して行く上に於ては何うしても自己の思想感情を他に遺憾なく發表する手段を研究し、之れを巧みに應用する事の出來るやうに修練して置かねがならぬのである。

(一) 饒舌と雄辯の別

世間には座談に巧みな人がある。種々の話題を作つて對手をして興味中に彷徨せしめ、何時も對話時の主人公となつて居る。「あの人はなか／＼話が上手だ」「あの人の話は面白い」と云ふ評語を下される。然るに斯く座談に長じて居る人も、公衆に向つて自己の思想感情を發表する事に於ては、甚だ拙劣、或は殆んど發表する事の出來ない人がある。是れ即ち公衆に向つて思想感情を發表する手段を會得せざるに依るのである。

自己の思想感情を他に發表すると云つてもそれは饒舌を意味する

のではない。何の纏りもない、何の統一もない、何の根底もない、何の感動も與へない、何の價值もないそれを云ふのでない。統一せる思想、根底のある思想、尊き價值のある言論を、燃ゆるが如き熱情を以て聽者に傳へ、而して偉大なる感動を與へると云ふのでなければ、たゞ徒らに言葉を發したと云ふに止つて了ふのである。

(二) 意思を自由に云ふ能力

故佐々博士は斯う云ふ事を云つて居る。「今は立憲政體の世の中である、其立憲政體は、自分の考へを忌憚なく言ひ現はす、十分有効に言ひ現はし得ると云ふ假定の下に出來上るのである。維新前の

やうな時代であると、理論より實行して云ふ主義で、詰り此方が正しいか、向ふが正しいか、何うも旨く判断が出来ぬ場合は、刀を抜いて決闘をする、さうして正邪を決める。又主人を諫めるのも、切腹して諫めるのであつた。所が今日は、裁判所へ出ても、國家の財政を論ずるのでも、何でも皆文章と言論とであつて、最早や刀を抜いてやるべき時代でない。小にしては村會から、大にしては帝國議會に至るまで、自分の意思を自由に言ひ現はす能力がなければ、立憲政體と云ふものは成り立たぬのである。昔の侍は、擊劍を知り、又柔道を知らなければならぬのであつたが、今の紳士は、自分で自

分の思想を口で言ひ現はし、文章で書き得る人でなくてはならぬ」と云つて居るが、實に今日は言論の時代である。自己の思ふ事を云ひ得ざる人は、處世上に於ても敗者の地位に立たねばならぬ。故に何うしても辯論修練の必要は吾人の急務である。

(三) 口と文章

又自己の思想、感情を他人に傳へるには、口で言ふ方法と字で書く方法との兩者がある。而して口で云ふ方は即ち演説であつて、字で書く方は文章である。演説にも政治演説あり、學術講演、宗教演説等があり、文章の方は式辭、祝辭、弔辭等がある。併し此の文章

の方は多くの場合に於て朗讀するのであるから、演説の方法を一通り心得て置かねば、其の音聲、態度等に於て缺くる所がある事になる。故に大體に於て政治演説をする場合も、開業祝の祝辭を朗讀するにも、根本に於いて自分の思想と感情とを遺憾なく他に發表傳達するの手段を會得して置かねばならぬ。以下雄辯界諸大家の經驗を主として編述する事とする。

其二 舌の權威

(一) 筆と舌との兩刀

諸君！ 近頃はブシコメトリー即ち人間的性能の測量と云ふ事が漸く行はれ、内外諸大學概ね實驗室を立て、頻りに研究調査を怠らない様である。ついては自分は一つ舌の力といふものを測つて貰ひたいと思つて居る。

凡そ天地間物理界には素より色々のエネルギー即ち力が行はれて居るが、人間社會には又別に種々の力がある。例へば金力、權力、腕力、兵力、乃至色力など其重なるものである。色力と謂ふのは女色、古より早く城を傾け國を傾けるとか、さては女の髪の毛の先を以て作りたる繩には大象も繋がるべしなど云へば、今更云ふ迄もないこ

とながら、然も後世に及んで層一層甚しきものあるは必ずしもネル
ソン將軍の事など援くは及ぶまい。然り而して此等の諸力以外に又
別に筆の力、舌の力のある事を忘れてはならぬ。色力は勿論金力と
権力も、將た又腕力も兵力も往々私慾を逞しく獸性を満足せしめん
ために濫用せらるゝ様だが、筆力、舌力は元來精神の自由發動で頗
る高尚のものである。語を變じて云へば、一國文野に由つて分かる
兆候は、筆と舌と兩力の發達如何に在りと見てよからう、近代人
が特に言論の自由を尊重する所以は其處にある。

(二) 言論の自由

西洋に於ても昔の教訓には兎角に舌を束縛する傾が多かつた。

Silence is wise といふ諺は各國にある様だ、之れを直譯すると「沈
黙は賢なり」とでも仕やう。併し實はこんな場合の *Wise* は必ず
しも賢明といふ程ではない。寧ろ利口といふ迄で、*Silence is wise* は
やがて「黙つて居るのが利口だ」と云ふに外あるまい。明哲身を保
つなど謂へば、一身の安全といふ上から打算すれば、言ひたい事を
も言はぬが利口であらう。然かもそれは卑怯じや、折角天賦の自由
を空しく束ねて行使しないのは偶々靈能の乏しいことを證明する。
「物言はば唇寒し」とか「一たび口にすれば驕馬も及ばず」など兎

角用心深きことを先きとするは、恐らく封建時代人民自由の缺乏したりし遺風であらう。我が國には昔より「人を見たら泥棒と思へ」といふ教訓あり、誠に恥かしい極じや、武斷壓制の世、身體、財産並に言論の自由久しく承認せられざりし適證は歴然として、今猶ほ遺風の存する鮮少なからずといひたい。

自分の座右には夙に伊東仁齋の語を其の子東涯の書きたるものが掲げてある。それは「徳は感化の本、言は争辯の基云々」といふのじや。自分等産れて兎角多辯なるものには藥であらうと思ふ。併し只だ一概に徳は感化の本じや、言は争ひの基ぢやと云つて、辯論を

排斥し去つては、眞に文明開化の進歩は望まれなからう。曾て大阪天王寺に開催中の明治記念博覽會を參觀し、偶々勝海舟と西郷南洲の兩雄が然諾を重んずることに由つて、何の雜作もなく追に江戸の大城を無事に明渡した事を繪に書いたのを見て深く感じた。是れは徳の力、人物の力と謂つて好からう。然かもそれと同時に又先年海外再遊の折、白耳義のブリュッセル市の大裁判所に於て正面先づデモステネスとシセロの兩像並び立てるを仰ぎて無限の思があつたことをも回想せざる得なかつた。

(三) 偉大なる舌の力

借問す誰か舌に偉大の力なしと言ふぞ、釋尊一代五十年、所謂金口の説法は是れ舌の力でないか。基督の教訓はどうだ、日蓮上人辻説法はどうだ。蓮如上人北國の化導はどうだ。特に弘法大師が清涼殿上に於て長くも主上を始め奉り月郷雲客の悉くから拜謝を受けたのは何の爲めだ。皆是れ舌の力の偉大なることを證して餘あるではないか。

勿論釋尊も大法を迦葉に附屬し、自ら只だ拈華微笑するのみで禪宗を肇めたともしはれるし、大日如來は法身其儘で説法せられて居るとも言はれるが、それは神秘不思議である。人智の上の沙汰とし

ては、如何に微妙な處も舌を藉らなければ發揮することが出来ない筆も固より力はあらうが、或は舌に及ばぬかの知れない。

(四) 舌は智的機關

之について思ふ事は、人間の心を智情意に三分するは既に陳腐の説であるが、暫く這の舊套を襲うて言ふとすると、智の發表機關は主として舌である、理論の機關である。而して眼は乃ち情と意との道具である、一瞥の秋波は情緒濃艶に、又炯々たる眼光は意力徹底するものがある。信仰は其處にあらう。多辯は、畢竟知中樞の活動が旺盛なることを示して餘ありと見られる。演説、説法などの場合

は舌と眼とが兼備したならばそれこそ鬼に金棒だらう。釋迦も慈眼は金口と相待つて非常に力があつたと想はれる。韓非子が遊説の難きを説いて困んで居るのは眼の研究を疎にした譏を免れまい。否更に深く論じて行くと舌は勿論眼も亦末である。眞に權威あるものゝ成らんとせば、根底を培養することが必要だ、所謂根底は畢竟人格で、舌の力も此の根底が固くなかつたならば只の力で權威とは行きかねやう。併し舌が元來智的機關であり、理論の機關であることは忘れてはならぬ。

舌は左様智的機關である所より、辭令に巧みな者は自ら形式に流

れる弊がある。西洋從來の雄辯術などいふものも色々細かしい規則など設けて却つて拘泥の譏を免れず、活氣に乏しい様に想はれる。今や平民主義流行し、群衆の勢力漸く滔天せんとする様になつては總べて何事も形式的の事は排斥せられる様であり、従つて又英國なごでも昔の様に堂々たる大雄辯は議院の内外を問はず、聞くこと甚だ罕なりと。近着の新聞紙に見えて居た、乃ち雄辯術は漸く一變せざるべからざる運に向つて來たのだ。若し今後群衆的平民に多大の感化を及ぼさんと思ふならば、舌は智的よりも寧ろ情的にするは眞言宗の所謂三密加持を實用するに由るが捷徑であらう。弘法大師清

涼殿上の奇蹟は全く此に因るものと想はれる。併し舌は元來智的機關であり、理論の機關であることを忘れてはならぬ。

何はともあれ、舌の權威を輕蔑する國には思想の進歩は望み難い舌は可成自由に動かして十分思想を發揚させねばならぬ。政府の壓制は勿論悪いが、群衆の盲目的壓迫も亦決して文明進歩の爲めにはならぬ、それと同時に舌を動かすものと亦管に流暢に馭辯を弄することをなさず、深く修養して十分權威あるものとなり、當代は暫く措くも百年千年の後に亘つて多大の影響を及ぼすことを心掛けねばならぬ。苟くも自由獨立の身にして、而かも口中三寸の舌ありなが

ら、世俗に媚び權勢に阿りて、所謂巧言令色をなす如きは舌の權威を潰すこと甚だしい。死後閻魔王廳の裁判を待たず、何とかして舌の力を實驗測定したら面白くはあるまいか。筆の方の事は又それから推して自ら分からうではないか。(文學博士谷本富)

其二 雄辯修練の心得

(一) 辯論の能力

總て需要があれば、供給が起るのは天地の道理と人間社會の常態である。其例として辯論のことを云へば、四十餘年以來燦然たる文

華を開いた東洋の文明に、今代に迄傳つて尊重すべき種々のものがある。其一として不朽の文章があるが、何故か雄辯の不朽なるものは是に伴はない。由來文章も辯論も社會の自由に伴ふが、特に辯論は自由と並行するものである。文章は封じて君主に捧げ服友に賜るから、國事に關する文章も相當に活用の餘地がある。是に反して辯論は、多數の人に對して公開の場所に私用するものであるから、政治に於ては平民的、社會的に於ては自由の國でなければ其用が乏しい、従つて自由ならざる國には發達の機會が尠い、是が東洋に雄辯の不朽のものが無い理由であらう。併し支那の歴史中、小區別の國

が並立して國際競争の激しい時代には、民衆に對する雄辯は見えないが、外交的雄辯の用があつた。此時代には辯論を尊ぶの風もあり、辯論の能力を有する人も出た。論語に文學政治を並べて言論の能を宰我、子貢の二人に孔子が許したと云ふことが見える。又子産が外交家として辭令に巧みなる人と云はれて居るが、是も辯論の能力を認めたと例であらう、降つて戰時の時代に會參、張儀は世に知られた。辯論家であつた西洋に於ても古くは希臘羅馬に幾多の雄辯家が現はれたが、其後は雄辯家が政治界に乏しくして、教壇の上に現はれた。現代に於ては早く英國に雄辯家が出て、其風が米國に行はれ

佛國には革命前後から雄辯家が現はれたのは皆、時代に應じたものである。我日本にも近事雄辯を尊ぶの風が漸く起つたから、是から其能力を現はすの時代に入るのが自然の順序と思ふ。

(二) 雄辯に必要な修養と其實例

雄辯に必要な種々の修養もあらうが、要するに自家の主張を述べて、他の同意を求むる利器であるから先づ自信がなければならぬ自ら信ぜざることを言語の上に修飾しても人を動かす力が缺けて居るから、雄辯の基礎がない。主語を修むることも必要であり、材料の豊富も必要であるが、根源は理に依つて勝ち、熱に依つて行らね

ばならぬ。譯して云へば自信である自信があれば勇氣も生じ熱情もある。人を感動せしめて我に同意させることも是から生ずる。易に「修めて以て其誠を立つる」と云ふ句があるが、是は雄辯の爲めに云ふた語ではないが、内に誠を有して修めたる辭で、外に現はす意味となるから雄辯の説明として利用することが出来る。其實例として彼の有名な歴史上の事實を挙げやう。

世界の歴史上にも知られて居り、米國史を讀むものは誰も必ず知つて居る、千八百六十三年米國のベンシルヴァニア洲ゲツチスボルグに激戦があつた。是は南軍の大將リートと北軍の飛將ミットとの

間に戦はれた戦で、南北戦争中尤も大切なる戦争である。此戦に依つて南北の勝敗が殆んど決した、戦終つた後そこに戦死者を葬つて追悼の大集會があつたとき、大統領リンコルン及びエドワード、エドレット（學者としてはハーバードの教授、次で總長となり、政治家としては代議士となり、在英公使となり、マザチユセツチ洲の知事を経て國務卿となつた人である）との二人が主なる演説者であつた。リンコルンは大激戦の後非常に繁劇で演説の準備をする暇もなく、汽車の中で秘書官から鉛筆を借りて手帖に數行のノートを作つた丈で、忽ちに其場所に着いた。エドレットは先に一時間半に亘る

演説をした。此人は當時有名なる政治家、演説家で、曾てはギリキ語の講座を持つた博士である。米國の歴史に通曉した人であるから、其演説の巧妙なることは數萬の聽衆をしていたく感服せしめ喝采は天地を動かした。此演説は後代に迄遺つて其演説集に載つて居る程上出来であつた。リンコルンは次で壇に立つた。其演説は五分間程の短いものであつた、聽衆は静まり返つて一人の反響もなかつた、リンコルンは自ら大に失敗したと思つて控所に歸つたがエドレットは是を激賞して、貴下の御演説は實に崇高絶妙で、自分の一時間半の演説は殆んど云ふに足らぬ、と挨拶した。リンコルンは意外

に思つて是は自分を慰める爲の言葉だと思つて居た。

所が一日を隔て、リンコルンは大統領の官舎に終日事務を採つて疲れたから、外氣を吸はふと夕方から散歩に出掛けた。薄暗りの時刻に向ふから馳せ来る青年がリンコルンに突き當つて、非常に激して居ると見えてリンコルンを罵つた。リンコルンは静かに何の爲めに急ぐかと聞いたら、此青年は、實に今私の兄が傷を蒙つて死に類して陸軍の天幕に收容せられて居るが、死ぬ前に遺言を認めたいから辯護士を呼んで呉れと頼まれて急ぐ途中であると語つた。慈愛深きリンコルンは其れは痛ましいことだが、私も辯護士の免許を持つ

て居るから、其證書を作る助をしやうと打ち連れ立つて天幕に行つた。此の負傷者は南軍の士官であつた、請に應じて證書を作つてやつたら非常に感謝して「是れで安心して死ぬことが出来ます、貴下は私の信友である」と握手した。リンコルンは尙ほ立ち去り兼ねて死に垂々とせる負傷者を慰めて、暫時話をして居たら、彼の青年士官は「余は神聖なる南軍の主張を貫かんが爲めに従軍した洲權を壓倒せんとする氣風のリンコルンと云ふ男は、政治上の敵であり極めて憎むべきものと思つて居た。是を助くる北軍を敵として戦ふたが今日まで憎むべき敵と思ふて居たリンコルンは決して悪人でないこ

とを知つた。今日發行の新聞を讀んで、リンコルンのケツチヌボルグの演説を見たが、彼は全合衆國の統一を熱烈に希望して國民の福利を信する所の主張の爲に盡力して南軍と争ふたことの主意が明白に現はれて居る。北軍と南軍との主張は異なるがリンコルンは其確信する所の方針に依つて盡力する其精神は明白に理解された、彼の男は決して悪い人でない。自分も又一點の怨を止めない」と語り終つて姑くして息絶へた。此青年士官は目前に遺言狀を調製した人のリンコルンたることを知らずに世を去つた。此事あつて後數日を隔て合衆國民全體はリンコルンの演説を傳へ聞き又は讀過して此演説が

非常なる變化を人心に與ふるに至つた。今日も尙ほリンコルン一代の名演説として、其全部が傳はつて居る。

(三) 雄辯の極致

アメリカ人が善く口にする彼の有名なる「人民の政府」「人民の爲の政府」「人民に依るの政府」なる句は此演説の終りの辭である。歴史家は此演説をアメリカ文字中不朽のものとして居る、修辭の上に於ても純粹洗鍊のものとして居る、何んぞ知らん是を述べたる演説者其人は失敗の演説だと思ふて居た、時の人此演説の狀を評して「リンコルンの演説は餘りに酷く人の心を打つたから是等に嘆服

して宗敬の念胸中に充ち、拍手も出来ず喝采もしなかつたのである。其状態は宛も會堂に於ける説教に對して何人も尊敬の念の爲に拍手喝采の不能なるが如きものと同様である」と云つて居た。

エペレットは人格極めて高き人であつた、政治上の経験、政治上の熱心、其學問の博宏一代に抜んでたる偉人で、其演説も皆後代に傳つて居るが、其人がリンコルンの五分演説に及ばざること遠しと自白し、敵も味方もリンコルンの五分演説に感嘆推服した。是は修辭の力に非ずしてリンコルンの人格と確信の現はれて言語となつた雄辯の極致が、斯の如き結果を齎したものである。此の一例は前段

に述べた説を證すべき適例と思ふ。(島田三郎)

其四 人を傾聽せしむる方法

(一) 學問と常識の必要

辯論を研究すると云ふことは今日最も必要である。政治の爲にも社交の爲にも亦事業の爲にも、何れの方面に行くにしても辯論の力を養はなければならぬ。而して如何なるものを雄辯と云ふか。此の解釋は色々あらうが、よく人は言ふ「唯饒舌するだけが上手になつても仕方がない、演説使ひになつたとて夫程偉くはない」と、誠に

其通りである。口は禍の門、と云ふ通りそれが爲に罰金を取られたり、不測の災を被ることがある、併しながら翻つて眞の辯論、眞の雄辯と云ふものは其の利益たるや非常に大いなるものである。所謂此の辯論家となる、雄辯家となる爲には先づ第一に知識がなければならぬ。學識無くして徒らに長廣舌を弄した所が、誰れも敬服して聞く者はない。故に諸君は學問をすると云ふことが必要である、とは云へ學識に富んで居るのみで宜いかと云ふに決してさうでは無く唯アカデミツクのことを言ふても聽衆は満足せぬ。故に又必らず世間的知識がなければならぬ、世間的知識と云ふものがあると其の辯

論は力を出し、人をして傾聽せしむる事が出来て來るのである。この二者が備はつて居れば實に申分がないのであるが、それで人は未だ感心しない。

(二) 同情と頓智

人は同情と云ふものがなければならぬ、如何にも人の感じた所を自ら感じて、他人心あり我れこれを忖度す、といふやうな人の心中を想像し得て、己れの言葉が人の何の邊にまで達して居るかと云ふことを察し、以て感情を起させ同情を注がしめなければならぬ。其所で學問あり經驗あり常識あり同情ある上に尙ほウイットと云ふ

ものがなければならぬ。頓智がなければならぬ。唯六ヶ敷い事、唯理窟張つた事を言つても、是では聴く人が厭きて了ふ。厭さるから十分に自分の考へ、自分の説が届かない、早く人を嫌厭せしめるやうでは、已れの説に敬服せしめることが出来ない。聴衆が厭きて來た時分には少しく心を慰めて休息させ、又續けると云ふので始めて已れの趣意を貫徹させることが出来るのである。或る場合には人の頤を解くまでのウイットがなければならぬ、其他條件は色々あるだらうと思ふが、先づ兎に角それだけのものが無いと即ち人の辯論を成さないのである。諸君が雄辯會を設けて常々互に切磋琢磨して演

説をすると云ふことは至極結構である。で、時々は又デベートすると云ふことが必要で、今日殊に議會に於て已れの説をし、敵の論鋒を挫かうと云ふにも討論の力と云ふものを養はなければならぬのである。故に偶には討論の稽古をしなければならぬ。

(三) 人に感動を與ふる一大要素

併し最も有力なものは何であるか、假令其の人が如何に雄辯滔々と述べ立て、言ふ所學識に富み經驗に富み常識に富み同情に富みウイットに富んで居り、如何に立派であつても、其の人に一點人格の缺點があつたならば、聴者に對しては唯一場の話聴くに過ぎぬ。

何んの感動をも與へることは出来ない。彼の男は斯う云ふこと言ふたが、彼はシーメンス會社或はアームストロング會社からコンミツションを取つて居る奴のちや無いかと、頭から馬鹿にして掛るから其の人の言ふ所の辯説には威嚴が無い。聽く者に何の感じをも與へない。假に此人が千萬言を盡して説いた所が何の効目もない。高き人格の備はつて居る人の一言の方が遙かに力あるのである。眞の辯論の中心は其の人の人格に在るのである。グラッドストーンは雄辯家であるが、雄辯を以つて人を感服させるのは其人の人格である。アスキスの偉いのはあの人の人格に在る、然らば諸君も先づ其の人

格と云ふものを中心として、人格を脊骨として、其の脅骨に肉を附け血を通はせると言ふやうになさなければならぬ。經驗は肉となりウイットは血液となつて、斯くして立派なエロクエンスが出来るが或人が言ふ言葉に、唯長廣舌を弄して議論をすると云ふのは全く以上の資格を備へないからである。眞の辯論家となるには、眞の雄辯家となるには、此の完全なる意義に於ける雄辯家となると云ふことに努めなければならぬ。之に依りて知識を附け、之に依つて常識を養ふことも出来るのである。(鎌田榮吉)

其五 聽衆に暗示を與へる方法

(一) 暗示の力

増上の一言直に人を動かすものは暗示の力である。緻密なる思索
精細なる観察は辯士に欲ぐべからざる條件ではあるが、緻密なる推
論や精細なる説述法は人をして理解せしむることは出来ても、感動
せしむることの出来るものではない、「學者と共に考へよ、俗衆と
共に語れ」俗衆に理解せしむるだけの講話でも、學者らしき推論、
専門家特有の言語では其の目的を達することの出来ないもので、經

驗ある講演者は常に専門語の通俗化、耳に入り易き推論を用ゐんと
苦心して居るほどであるから感動を目的とする演説に面倒な理窟や
難解かしい言語は大の禁物である。

一體「人は理性に動くなり」なぞいふて人間といふものを論理の
機械のやうに思ふのは一大謬妄で、人間は決して冷かなる論理の機
械でもなく、理性によつてのみ行動する單純なものではない。一切
の議論の後には趣味の背景があり、主義主張の本には情執の根深く
流れて居るものがあつて、其の背景に左右せられ、其の根に動かさ
れて理窟や推論では如何ともし難きものがある。理を以て立つもの

は理を以て破れるわけであるが、「道理はさうでも、さうは思はれぬ」といふ悪い執着が根強く心の奥に蔓つて居る、學者已に然り、況んや俗衆をやで、俗衆の行動は主として習慣と摸倣と暗示とに支配せられて居つて推理の力なぞといふものは極めて微弱なものである。しかも其等の俗人を一所に集めて群衆の状態に置き、之を動かさんとするに、勞徒らに多くして功頗る少いのは當然の理といふべきである。

(二) 群衆の被暗示性

ルボンもいふた如く、個人々々としては理性の備つたものでも群

衆になると其の個性に消失し、其の理性は影を潜めて、本能の力は頭を擡げ、意識的狀態より無意識的狀態に入り、傳染せられ易く、暗示せられ易くなるものである。此の者共に對して精到なる推論を振り廻し、緻密なる理窟を列べ立てたからとて、所謂大聲は俚耳に入らずで何の反應もあるべきものではない。ルボンは這の間の消息を道破して、「群衆は緻密に思考せられ精到に推論せられた千言萬語の名論占説よりも、耳に入り易き片言雙語に動くものである」といふて居る。

群衆の心理既に斯の如しとせば、群衆を動かすものは理論にあら

ずして簡單なる捉言である。シセロの多くの雄辯は忘れられても、「自由は羅馬人の特權なり」との一語は深く聽衆の腦裡に印し、バトリック、ヘンリーの千言萬語を思ひ起さずとも「我に自由を與へよ然らずんば死を與へよ」の一句は聽衆をして忘るゝなからしめたのも亦全く此の簡單なる捉言の力である。矢野龍溪氏の「浮城物語」に「我れに經驗あり、他國の士兵を率ゐるの法號令の簡單なるを要す、進撃、發銃、緘引、休息の四語を知れば足れり」とあるのも此の群衆の心理状態を看破したものである。ケル、スコットの「雄辯心理」にも亦此の心的状態を捉へて「人間を指揮する偉大なる人物

は決して其の部下を推論するに長じたものでもなく、又人間を感化する偉大なる人物は尤も論理的に自己の眞理を群衆に現はす人でもなく、彼等は其の言語態度等の刺戟によつて聽衆を暗示するものである」といふて居る。

吾等が平常の行爲は一の動機の起る毎に、之れを他の動機と比較選擇し、其の何れに就くべきかと思慮し、思慮の結果、之れを決定するの順序を取るものがあるが、大雄辯に接する時は其の順序は全く忘れられて、其の言ふ所直ちに暗示となつて何の選擇なく直に決定となり行爲となるもので、かく聽衆の心理をして選擇し、思慮する

の暇なからしめ、直に辯士の所説に服従せしむることを得ば、之れ演説に於て尤も多く成功せる時である。

(三) 被暗示状態

如何にすれば斯く爲すを得べきか。催眠術に云ふ所の暗示の理法は悉く演壇に應用せらるゝので、先づ聴衆をして暗示を受け易き状態に置くと云ふことが必要である。暗示を受け易き状態とは其の個性の力を微弱ならしめ心内に起り來らんとする他の觀念を防止するので、之れには個人的状態を脱却して暗示を受け易い聴衆の状態に置くを第一とせねばならぬ、如何にすれば聴衆の状態に入らしむること。

とが出来るか、これはスコットもいふて居る通り

一、聴衆と辯士とを密着せしめ、聴衆と聴衆とを密着せしむること。

二、聴衆をして同一態度を取らしむること

が尤も必要である。聴衆と辯士との間が餘りに離れて居つては、心と心と相通せず、辯士の強烈なる觀念を以て聴衆の微弱なる觀念を征服し、彼等をして殆んど電氣を受けたる如くに、其の暗示を受けしむることが出来ないのであるから、聴衆と辯士とは成る可く密着しめねばならぬ。聴衆と聴衆との間隔が甚しくては相互に個人的

自覺が頭を擡げて、群衆の状態に入り難いのであるから、如何なる雄辯家も空席多き會場で演説を爲難きを感じるのは、全くは聽衆個々離れ離れになつて暗示を受け易い群衆の状態に入らないからである。之に反して聽衆の肩と肩相觸れ、手と手と相接するやうに密集して居る時は心的共通此の間に行はれ彼等の感情をして、同一方向に向つて赴かしめ易くなるから其の演説も亦調子づいて其の暗示も亦功を奏し易くなるのである。次ぎの同一態度を取らしむるとは、一齊に敬禮せしむるとか、同じく唱歌せしむるとかするのでスコットは之れに就て予は米國の偉大なる傳道者が讚美歌を謳はない聽衆

の一人に無理に讚美歌の本を渡して謳はせやうとしたのを見て、其の用意の周到なるに感じたこと云ふて居る。日本の傳道者の中にも此の手段を取つて居るものは少なくないので、佛教徒の方でも一齊に念佛や三歸を唱へさせてから説教するのは普通のことであり、或る禪師は登壇後五分間は靜座冥想せしめてから話を初め、教育演説家として有名なる某氏は最初に必ず勅語を朗讀して聽衆を同一敬肅の狀に居らしむるものもある。これらは皆な群衆心理の狀態に至らしめ暗示を受け易からしむる一種の手段であり方法である。

(四) 會場の整理

次に必要なるは辯士の與へたる觀念をして聽衆の心理を占領せしめて、他の觀念を起さしめぬやうに、聽衆の意識を制限し、一も二もなく其の云ふ所を受入れしめんとするので、それには會場を整理して聽衆の觀念を成るべく平穩なる状態に置かねばならぬから場内の喧擾を止め、其の喧擾に依つて觀念の集注を妨げざるやうにせねばならぬ。不注意なる司會者が聽衆の耳目の焦點たる辯士の前後左右を往來したり、不謹慎なる來聽者が互に耳語したりするのは辯士の暗示力を妨げ、其の演説を困難ならしむる主要の因を爲すものである。況んや悪罵冷評交も起つては暗示力を排斥し、反對觀念を

聽衆の心理に起さしむるのであるから、先づ此の喧擾を静めねば有功に演説することが出来るものではない。

(五) 威 嚴

聽衆を被暗示状態に置くの第一義は辯士に威嚴がなければならぬ。若し辯士に何の威嚴もなく初めから輕侮を以て迎へられた時には反對觀念が聽衆の心理に跳梁して其の説服に幾多の困難を経ねばならぬ。ルボン¹は之れを論じて「威嚴は吾等の心意上に及ぼす一種の威壓である、此威壓は吾等の批判的機能を麻痺し驚異と尊敬とを以て其の心を満たすものである」といひ、これを後天的と先天的とに分

けて居る。後天的とは家名とか財産とか肩書とか世評とかを指すので、之れが聴衆の心に與ふる威壓は偉大なもので、其の名を聞いて初めから感服してかゝるのであるから、暗示を受け易いのは言ふまでもなく、甚しきは家を出る時から暗示を受ける準備をして居るやうなものもある。先天的といふのは全く其の人固有の性格で聖賢や偉人に見る所の人格の力である。これ等の威壓は暫く別として、直に壇上に於ける辯士に就いていへば、其の登壇の初めに於ける態度が一種の威嚴となつて聴衆の第一印象を與へるもので、禮儀正しく態度に品位あらんか、其の第一印象に於て信用を置き、耳を傾くるの用

意となるが、若し如何にも無作法で品位なき態度ならんが、其の第一印象は輕侮となつて暗示を受け難き状態に入るのである。

(六) 説述方法

態度先づ聴衆の信用を得ても、説述の方法宜しきを得なければ、疑惑の念起つて信服の態度は一變して批評的となり、疑惑募るに従つて、苛批酷評となつて暗示は到底功を奏し難きに至るのであるから、辯士は登壇の初めに聴衆の疑惑を一掃して其の所説に信用を置かしめねはならぬ。彼のマークアントニオがブルタスの後に立ちて「予はシーザーを弔らはんが爲めに來つたのでシーザーを辯護せん

がためではない」と揚言して陽にブルタスを賞讃して聴衆の疑を解いた如きは尤も狡猾なる説述法であり、殊に多くの反語を用ちて次第々々に聴衆の心を自己に傾けしめ、終に全く聴衆を魅了つて其の心を被暗示的狀態に置き、聴衆自ら期するが如く聴衆をしてブルタス反抗の聲を挙げしめたのは、尤も巧みに群衆心理を利用したる説述法である。曾て某政黨の名士が反對黨の盛なる所に遊説を試み出る辯士も出る辯士も、冷嘲熱罵の爲め妨げられ、演説半ばならずして壇を退く後に出て、雨と降冷評を耳にもかけず、靜かに口を開いて「當地は舊何々藩の領地であつた、抑も藩祖何々公は……」と

藩祖の功績を述べたてたから誰一人冷評するものもない、斯く諄々と藩政の事を賞讃して終に現政府の方針とを比較し、「其の藩政の下にあつたものが……」といよ／＼本音を吹き出した時には敵も味方一齊に喝采して全く其演説に釣り込まれてしまつたといふことがある。これも亦説述方法其の宜しきを得たものと云はねばならぬ、此の如きを間接暗示といふ。間接暗示は巧みに反語や諷刺や嘲諷を用ひて陽に聴衆の意を迎へつゝ陰に自己の所説を述べ、知らず／＼の中に群衆をして自己の所説に同せしむるので、シヨットは之れに就て「此の方法によつて辯士は自己が結論を表現する前に群衆の心裡

に辯士の結論を待たしめ、辯士が結論に達するときには、群衆は其の心に期したるものと一致するが故に、確乎たる真理として受け込ましむることが出来る」といふて居る。此の暗示は修辭上の技巧を要する困難なるものではあるが、古來雄辯家の尤も多く使用せるものである。

(七) 斷言と反覆

直接暗示の文法は簡單にして奇抜なる斷言で、何等の考慮を費さずして暗示の受け入れらるゝもの、即ち否か諾かが判然と表示せられ、解説や立證の必要なく且つ全然非讓歩的なるを要するので、少

しでも説明を要したり、例證を挙げねばならなかつたり、又讓歩的の句が加はつては緊張したる群衆の心を弛めて被暗示的狀態を脱して批判的狀態に入らしむるものであるから、匕首を以て直に肺腑を貫く如き明確なる斷言でなければならぬ。其時に奇抜なるを要するのは、平凡であれば刺戟が強烈でないから暗示を受くることが強烈でないが、奇抜なれば奇抜なるほど注意力を集注して暗示を受け易からしめるのである。併し其事があまりに奇抜に走つて聽衆の實生活と没交渉では、又之れを受け入れることが出来ないものであるから平凡なる真理の奇抜なる言ひ廻しは演說家の尤も工夫を要する所で

ある、若し夫れ其の斷言が反覆せられ一回二回と數を重ねれば、最初はさほどまで感ぜざりしことも、上手な大工でも釘は一邊には打てぬが、下手でも何邊も打ては釘が入込む」といふ如く繰り返し繰り返しする中に自ら聽衆の心に浸徹して明確なる眞理として受入れられる。

(八) 暗示と人格

暗示には強烈なる刺戟を要する。演説に於ける暗示は主として口より出でて耳に入る音聲の力であるから、此の音聲が何の刺戟もなき手ぬるき調子であつたならば、聽衆の心は他に散亂して雜多の觀

念其の間に起つて被暗示性を攪き亂すのであるから辯士の腹の底より出でて聽衆の腹の底に入るほどの力強きものでなければならぬ。所詮暗示は強力の威壓であるから力なき音聲は何の反響をも與へることが出来ない。力ある音聲は辯士の熱情より出るもので、熱情のない演説に力ある音聲の出るべきではない。力なき音聲は暗示を興へ難しとせば演説に於ける暗示奏功の第一義は辯士の熱情である。自ら感憤せずして他を感憤せしむることは出来ない。雄辯の奥には感憤あり、此感憤迸つて人を動かす、此の熱情溢れて人を感せしむ如何に技巧を弄するとも、此の感情なきものは皮相の態度虚偽の言

修養處世辭典

論である。

修養處世辭典

羽山尙德編著

立志

貝原篤信曰く。學問は、まづ志を立つるを以て本とす。志とは、心の行く所なり。志立たざれば、學ぶこと成就せず。故に古人も志ある者は其の本つひに成ると云へり。たとへば弓射る者の、的に志し、道ゆく者の宿りに志すが如し。萬の事、まづ本をつとむべし。志を立つるは、學問の本なり。志を立つるは、勇猛なるべし。

立志

二
怠れば、しるしなくしてはかゆかず。道を求むるに切なる志は、
たとへば飢ゑて食を求め、渴きて湯水を求むるが如くなるべし。只
此の道に、心を一すぢにすべし。外物に、心をうばゝるべからず。
これをたとへば、西國の人の東へ行かんと思ひ立ちて、日々ゆくに
其の間、晝夜あづまへ行かんと思ふ心は念々常にやまず。是あづま
へ行く志立ちたるなり。かくの如くなれば、つひには志す所にと
かずといふことなし。道に志すも、亦かくの如くなるべし。志を立
つることは、大にして高くすべし。小にして低ければ、小成に安ん
じて成就しがたし。志を立て、日々月々に勉め行はゞ久しくして

其の功積りて必ず人にまさるべし。上を學べば中に至り、中を學べ
ば下に至る、下を學べば功をなさず。又心は小にして低くすべし。
人にへり下り、日用常行のひくき足下より行ふべし。心大なれば驕
りて慎みなく、細行を務めず。高ければ人に高ぶりて謙徳を失ふ。
藤井高尚曰く。かくもんはさらなり、なに、てもおのがつとむべき
わざをよくつとめて、つひになし得んとするたぐひの、よきすぢ
のことねがふには、はじめよりこゝろざしを高く大きにたて、ひ
かしのかしこき人も人、我もおなじ人なれば、よくつとめたらんに
は、一よろづの人にすぐれたることなし得んものを、とおもひはげ

みてつとむべし。しかすれば、ほどほどに、なしうることあるべし。我はおろかにつたなければ、つとめても人なみくくにだにえせじ、など、おもひ、くづをるゝ人は、深山の谷のうもれ木の、世にしられずくちはてぬべし。

鹽谷岩陰曰く。學問は、目的を立つるを、第一手を下すの初めとする事となり。其の目的とは射をまなば、鵠に中るを期し、田をつくらば穀を得るを期とする如く、其の業の至る處、此と見切ることなり。然るに今の學問するもの、目的なき人多し。譬へば、的なくして空しく矢を放つに齊し。試に是れを論せん。予は醫家に生れた

れば、多く醫者と交り、毎に其の語を聞くに、醫者は儒生と違ひ、目前活物の死生に預ることゆゑ、其の業を成すこと難しといふ。是醫者の常言なり。誠に解すべからざる言と云べし。それ儒の道は、心を正し、身を修め、家國天下を治る道なれば、一たび調合をあやまる時は、身の賢愚、家の興衰、國の治亂にあづかる。是を活物にあづかる者に非ずといふべけんや。然るに當時醫者の言、往々上の如く、人も亦是れを怪まざる者は何ぞや。是れ醫者の理を解せざるに非ず、當世學者の、學び方を失ふゆゑなり。學問するとして唯文字をよみ、昔物語を覚え、詩文章を人目駭かしに修むる計にて、今

六
日心身を修め、家國を修むる實用に用ゆる者なきゆゑ、他より是れをみる時は、儒者は只字をよみ、物をしる而已と思ふは、尤ものことなり。畢竟世間の學者は、大率目的なしの學者なるがゆゑなり。然らば世俗のいはゆる學者を離れて、眞の學者とならんと志すに、何を目的とすべきや、目的とは餘の義に非ず、眞の人とならんと志す計のことなり。扱眞の人となるは、如何となれば、他事に非ず。親に事ふるに、至孝ならざるは、眞の人に非ざるなり。君に事へて至忠ならざるは、眞の人に非ざるなり。去ればいかなるが至孝至忠の道ならん、と其の理を自身の心神に問ひ、仰いて古聖賢の書に旁

求し、必ず至道を知て以て、此に至らんと目當を定むる、是學問初發の射侯なり。古の、人に勝れし人も、他に非ず、此を見ること早く、手を下すこととき故に、聖賢、君子、英俊、豪傑とよばる。皆千辛萬苦して、精神を勵して後に此の域に上りしなり。尼父の志學、孟子の願孔、顔子の舜何人也は言もさらなり。明道先生が、十四五歳便學三聖人、朱文公が八歳の時に、孝經の上に題して、不如此使不レ做人といひ、陳白沙が、有三天民者、達可レ行於天下、而行レ之を讀て、大丈夫行レ己當レ如此也といひたるも、皆此處へ第一に目を著たるなり。伊藤仁齋先生十七歳の時、三井寺に登り、琵琶湖を

望み、慨然遠想し、男兒勿ニ空死ニ大哉神禹功といふ詩を作りたり。
其の後厲精苦學して、一代の碩賢となりたれば、亦其の志に背かずといふべし。人の材徳は、草木の如し。同じく天地の氣を受しものなれば、日々に生滋するもちまへなり。草木生長せざれば、枯るなり。人の材能も進まざれば、退くより外なし。韓文公が、聖益一聖。愚益一愚と言れしは、此事なり。子は庭弱愚陋の至りなれども、願くば市井の小人と異なり度と念ひ、師友に切磋して、性善の言を篤信じ、鞠躬盡力。死而後止といふを平生佩服し、命あらん限りは苦學する鄙衷なり。欲ニ持贈君無ニ長物。山中只有ニ白雲飛。この心、諸子

と是れを共にせんと欲するのみ。
三浦安貞曰く。今の人或は學に志し、あるひは藝にこゝろさすもの。一旦憤を起し、晝夜をわかつたず、つとめはげむといへども、已に一月を経、半月をすぎ、怠る心はやく生じ、吾つとめの至らざるとはいはて、生質の過に委す。馬ははやしとて、朝暫くはしりてやまんに、いかでか牛の終日ありかんに及ぶべき。谷間の石の磨け、井幹のまるくなるも、豈一朝一夕の力ならんや。今日やまず、明日やまず、今年止まず。明年やまず、然して後そのしるしあり。人一生の力を、その道に用ふるさへ、尙その奥義にいたるはやすからず。

況我一月半月乃至一年半年のつとめを以て、他人一生の功に比せんとす、思はざるの甚しきなり。ひかし李白、書を匡山によむ。漸く倦みて他行せし時、道にして老人の石にあて、斧をすするにあふ。是をとへば、針となすべきとてすりき、と云ひけるに感じて、勤めて書をよみ、遂にその名をなせり。小野道風は、本朝名譽の能書なり。わかゝりしとき、手をまなべども進まざることをいとひ、後園に躊躇しけるに、墓の、泉水のほとりの枝垂たる柳に、飛びあがらんとしけれども、とゝかさりけるが、次第く高く飛びて、後には終に柳の枝にうつりけり。道風、是より藝のつとむるにある事を

知り、學びてやまず。其の名今に高くなりぬ。

庄司健齋曰く。それ人の、苟も學ばんと欲するものは、早く自から断じて以て、志を立てざるべからず。若し其れをして断ずること早からざらしむれば、則ち悔恨するも亦何ぞ及ばん。蓋人生には限りありて、日月は流るゝが如く、乍にして而うして壯。乍にして而うして老ゆ。若し早く計らざれば、則ち必らず時を失ふの悔あらん。請ふ我、會衆のために、宋の朱新中の、人生五計の説を舉示さん。其の説に曰く。人生壽夭齊しからざれども、姑く七十を以て率とせん。十歳を童兒とす。父母、膝下に寒暖燥濕の節を視、乳哺衣食の

宜きを調へ、以て成立を須つ。其れを名づけて、生計といふ。二十を丈夫とす。驥子の櫪に伏すが如く、意、千里に在り。其れを名づけて、身計といふ。三十より四十に至るまでは日夜思ひを注ぎ利を擇みて而うして行き、財は厚からんことを欲し、門は大いならんことを欲し、子息は盛んならんことを欲す。其れを名づけて、家計といふ。五十の年は、心怠り、力疲れ、世間を俯仰する智術、用ひ盡して、西山の日漸く近く、當に縁に隨ひ、運に任せ、念を息め、心を休むること、蠶の繭を作るが如くなるべし。其れを名づけて、老計といふ。六十以往は甲子一周して、夕陽山に啣まる。其れを名

づけて死計といふ。と詳なるかな、其の之れを言ことや。會衆須く自から計るべし。蓋し人生は短促なり。其の志を立て、業を建ることは、全く生身二計の時に係る。若し此時を空底過了せば、悔恨するも何ぞ及ばん。斷然自から決せざるべからず。又曰く。經に曰く。人心惟れ危く、道心惟れ微かなり、と。それ人慨然として學に志すは、是れ道心の發せるなり。既にして而うして退然委靡し、怠墜して而うして中に廢するに至るものは、是れ人心の之れを妨ぐるなり。朝にして而うして道心、夕にして而うして人心と、兩端にして決せず、日又一日、悠揚以て時を失ふに至るもの、

往々にして是れなり。丈夫に在りては、宜く斷然速に自から決すべし、我又新仲の五計説に就きて、其の道心を妨げ、立志を害するものを提舉して、以て會徒に告げん。會徒宜く須く猛省して、以て其の人心の萌すを防ぐべし。若夫生計の時は、二十歳前戯嬉游玩、其の志を害し。身計の時は、二十三少艾及び末技小藝、其の志を害し。家計の時は、四十歳仕途家道、其の志を害し。此時書最多し。老計の時は、五十歳後欲に従ひ安に就きて、其の志を害し。死計の時は、兒孫田宅、其の志を害す。嗚呼。能く此の關を出脱せんこと、或は難からん。然り而うして此等の事物に妨害せられて、而うして超然自立するこ

と能はざれば、則ち一生凡夫にして而うして暗愚に老いんのみ。豈恥ぢ辱ぶべきにあらずや。孔子曰く。君子に三つの戒めあり。少き時は、血氣未だ定まらず、之れを戒むる色に在り。其の壯なるに及んでや、血氣方に剛し、之れを戒むる闘に在り。其の老に及んでや、血氣既に衰ふ、之れを戒むる得るに在り。

貝原篤信曰く。およそ人の不孝不忠、もろくの悪を行ひ、慾を恣にし、身をほろぼし、家をほろぼすにいたるは、何にかよれるや。知なければなり。又善を行ひて家をおこし、身をたもち、はまれを得るは、何の故ぞや。知あればなり。知あればよく善悪を知る。善

のなすべき事をしりて行ひ、惡のなすまじき事をしりて行はず。此故に知は身の内の大なる寶なり。學者道に志さば、知を求むるを第一とすべし。知をひらく事は學問の功にあらすんばなしがたし。鐸堂隨筆に曰く。人の、事業を成就せんには、志氣の剛健なるこそ基本にはあれ。志氣の剛健ならんものは、いかなる煩勞をも、いかなる辛苦をも、いかなる賤劣にして人のいやしむ事業をも、嫌ふことなく、厭ふことなく、勉強むが故に、つひには他人の及ばぬ地位にも進みうるものなり。穎敏なる才あらんことは望ましけれど、剛健なる志氣をかきなば、功を成すこと難からん。もし危険なる境に

陥り、不幸なる運に逢ひなば、忽ち失望透し、之に處せん方を知らずして、心ならずも、つひに挫折せん。假令穎敏の才を闕けりとも、剛健なる志氣にあらば、かゝる時運に會ひても、困に堪へ、難を排き、これに由てますゝその志氣を健にし、その經驗を増して、必その志を成遂げらるべし。されば志は人の人たらん中心力にして、志望の大基本にはありけり。善良なる志望は、鮮麗なる花の如く、世に春色を遺さん。古人の言に、世に痛しきは、心の怯弱なる人にして、福多きは志の剛健なる人なり、といへり。怯心の士は、鶴唳を耳にしても驚怖すれど、剛氣の卒は、瘡痍を被ふれ

とも尙戦はんとす。心の力は身體の力よりも盛なり。身體の力の消盡せん時までは、心の力を以ていかなる事業をも爲得つべし。謙遜にして、驕傲ならず、忍耐にして、浮躁ならず、中正にして、偏曲ならざりせば、いかなる志望なりとも、剛健の徳に由て、成就せぬことはなからまし。古人の断じて行ひてば、鬼神も之を避けなんと
いへるも、此の心ならんかし

大高子葉

朱晦庵

孟子

陽氣發處金石亦透。精神一到何事不成
彼丈夫也。我丈夫也。吾何畏彼哉

舜何人也。予何人也。有爲者亦若是

孟子

孟子

待文王而後興者凡民也。若夫豪傑之士。雖無文王猶興。

朱晦庵

勿謂今日不學而有來日。勿謂今年不學而有來年。日月逝矣歲不我延。嗚呼老矣是誰之愆。

陶淵明

盛年不重來。一日難再晨。及時當勉勵。歲月不待人。

白居易

少年易老學難成。一寸光陰不可輕。未覺池塘春草夢。階前梧
葉已秋聲。

よみ人不知

きのふこそ早稻とりしかいつのまに稻葉そよきて秋風のふく

僧清狂

男兒立志出三郷關。學若無成死不還。埋骨豈期三墳墓地。
人間到處有三青山。

立志の實例

新井白石。名は君美。字は在中。初の名は瓊。一の字は濟美。白
石は其の號なり。江戸の人。父正濟は、久留里の土屋氏に仕へし

白石は古河の堀田氏に仕へぬ。されども後故ありて辭し去れり。
白石少時より英敏にして、四五歳の頃より文字を識り、七八歳
の頃、人に伴はれて演劇を観、家に歸りて之を語るに、詳かにし
て一も遺忘せる所なかりきとぞ。嘗て慨然として歎じて曰く。大
丈夫、生きて封侯を得ずんは、死して當に閻羅王となるべし、と。
其の仕を辭して淺草に住みける頃は、零落を極め、わづかに筆耕
を業として、學事を勤め、辛く其の日を過し居たり。當時河村瑞
軒は江戸に名高き富豪なりしが、白石、筆耕の事に付きて瑞軒の
家に入出入する事となり、其の藏書を借覽しつゝ漸く瑞軒と親しく

なりぬ。或日白石、年來苦學すれども、業を成し志を遂ぐる事を得ず、と慨歎して語りければ、瑞軒笑ひて、足下は是まで業のために死なんと思ひし事幾度ありしやと問ふ。白石、其の言の意外なるに驚きつゝ、未然る事一度もあらざりきと答へければ、瑞軒いふやう人の一事業を成就せんとするには、死ぬべき程の困難も来り、又自からも死なんと覺悟する事、必ず幾度もあるものなり、足下年なほ若し、今後志を立て、學業のために死を期せざるべからずと誨へければ、白石大いに感激し、更に憤勵しけるを以て、遂に幕府に仕へ、從五位下筑後守に進み、祿千石を領する身とは

なりぬ。

昔時明石に一士人あり。弓術を好むこと、色を好むより甚し。されども左の臂拘み撃れて、十分に弓を引くこと能はず。師に就きて三月ほども學びけれども、進歩する所なし。されば師のいひけるは、足下射を止めよ、逆發達の見込みなし、人にはおのゝくそれゝに能する所の事のあるものなれば、弓のみには限るべからず、何か他になすべき所のものを求むる方然るべしと諭しければ、士人深く残念に思ひ、如何にもして素志を貫ぬかんものと決心し、妻を別居せしめ、獨一室に起臥し、晝は弓を引き、夜は石臼を、

立志

拘りし方の腕にかけてこれを伸しつゝ、三年の間ひたすら弓を學びてありしが、或る日士人の家の前を通るものありて、其の弦音を聴き、此は名人なり、吾此の人に請うて教授を受けんと、案内を求めて面會しければ、何ぞ料らん其の名人は舊の弟子なりきとぞ。

熊澤蕃山、名は伯繼、字は了介、通稱は次郎八、後助右衛門と改む。有名の儒者なり。初め學問に志し時、眞の儒に師事して修業せまほし、と思ひ居たるが、其の頃金を預りし加賀の飛脚あり、途中にて馬を馱ひ、榎木宿に泊りければ、馬方は河原市なる家に

歸り、馬を洗はんとて鞍を解下しゝに、財布一つ出でたり。改めて見れば金二百兩あり。馬方大きに驚きさては最前の旅人のものならん、と其のまゝ榎木に走りゆき、其の金を返しけるに、飛脚は一方ならず悦び、此の金なくば親兄弟までも重罪に處せらるべかりしなり、まづ此れは當座の御禮までなり、とて感涙を流して金子十五兩を出して與へければ、馬方思ひまうけぬ顔色にて、そなたの金をそなたが取納め給ふに、何の禮といふことのあるべき、とて手にだに觸れず歸らんとする故、十兩と減し、三兩となし、終には二歩となしゝも、受取らず、此の金受くる程ならば、二百

兩をも留め置くべし、さりながら折角のお詞ゆゑ、鳥目二百文賜はるべし、是は今夜の賃錢なれば申受くべし、それにて酒を買ひ人にも飲ませ、我も酔ひて歸らんといふ。飛脚感に堪へかね、そこは如何なる人にておはすと問ふ、馬方、否名ある者にはあらず我が近所の小川村に與右衛門といふ人おはして、夜毎に講釋ありて、人の物は決して取らぬものぞと語り給ふにより、今日の金も取るまじきものと心得しまでの事なり、といひ捨て、歸りぬ。蕃山折節此の物語を聞きて、其の人ぞ日頃求むる眞の儒なる、として翌日近江の小川村に至り、隨從を願ひしに、人に教ふべき學徳な

しといひて許されざれば、蕃山二日間藤樹の門に佇みて去らず、藤樹の母これを見て氣の毒に思ひ、内に入れ申せ、といふ、孝心深き藤樹、いなみ難くて、遂に師弟の契約をなしたりといふ。伴林光平は、通稱を六郎といふ、幼にして本願寺派の僧となり、法名を周永と稱せしが、父の命によりて僧となりしものにて固より其の本意にあらず。稍々長じて國學に志し、古史、舊典、百家の書に該通し、和歌及び書に工みなり。一日京都より河内に歸らんと舟に乗り、淀川を下りしに、舟の中に因幡の客あり、周永これと佛を論ずれば説伏せられ、儒を論ずれば亦説伏せらる、周永

感服し還俗して弟子たらんことを請ふ、客は一時の遁辭ならんと
 思ひて肯んせず。周永、固く請ふ。客、然らば盟ひを立つべしと
 いふ。周永、舟中倉率の事として別段盟を示さんものなければ、今
 より請ふ名を光平と改めて、以て盟の驗とせん、抑も吾が本山本
 願寺の住職たるや世々光の字を其の名に冠らす、故に支寺末派の
 僧侶の、光の字を以て名とすることを許さず、然るに今自から光
 の字を名とす、是れ一時の遁辭にあらずして歸俗の志を決せる
 を證するに足りなん、と乃ち法衣を解きて淀川に投棄てければ、
 客之を奇として其の請ひを許しけるとなん。光平時に一詩を賦す。

曰く本是神州精血民。謬爲僧侶一説。同塵。如今棄佛佛休。答。本
 是神州精血民。

佐久間象山、名は啓、字は子明、象山は其の號なり。文化辛未、
 信州松代の象山の麓に生るを以て、此を號とす。通稱は啓之助、
 後修理と稱す。幼き時より穎悟にして神童の稱あり。既に長じて
 豪邁不羈。濟世を以て己が任とせり。藩主眞田幸貫、深く象山を
 愛し、擢んで、近侍となせども、象山學の未だ成らざるを以て固
 く辭退しければ、遊學の資を給して、其の業を砥勵せしめられり。
 天保己亥二月十二日、郷里を出で、江戸に赴かんとする時、其の

母郊外はいつたはつれまでこれを送り、訓をしへていふやう。そなた學問がくもんせんと欲ほつせば、宜よろしく篤實とくじつにして道みちに志こころざしし、勤苦きんくして徳とくに進すすめよかし、苟かうにも吾わが訓をしへを守まもらば、假令たとひそなたが遠とほく千里せんりの外ほかにありとも、猶なほは近く吾わが膝下ひざもとに在あるの思おもひすべし、若もしし其その志こころざしと行こなひとが儕俗なみくのひとひとと等ひとしからんには、能よく我われを養やしなひ、能よく我われを扶たすくるといふとも、我われは樂たのしと思おもはざるなり、そなたの學問がくもんする要えうは、此この外ほかにはあらずかし、そなた若もしし吾わが言ことばに背そむかば、吾わが兒こにあらじ、能よくこれこゝろを心得こころえと戒いしめければ、象山しやうざん感涙かんるなみを流ながし、益々ますます篤信とくしんの志こころざしを發はつし、遂つひに業げふを成なして大名たいのいを天下てんかに揚あげけり。

學問

貝原篤信かいげんとくしん曰いく。人ひととある者は、萬物ばんぶつにすぐれ道みちあるものなれども、食しょくを飽あくまで喰くらひ、衣ころもをあたくかに着き、家いえを構かまへて身みをやすくしたるまでにて道みちの教をしへなければ、形かたちは人ひとなりといへども、其その心こゝろ其その行こなひは、禽獸きんじゆうに近ちかきこそ恨うらみしけれ。されば道みちはしばらくも離はなるべからず。學問がくもんなく、道みちを知らざれば、人ひとの道みち立たず。人ひとと生うまれつきたる甲斐かひなし。人生じんせいふたゞび得え難がたし。道みちを學まなばずして空むなしく過すすべからず。學問がくもんはまづ此この道みちに志こころざしを立て、明あきなる師しを撰せんびて、其その教をしへを受け、よき友ともに交まじりて其その助たすけをかるべし。志こころざしを立たつる事は

我に在りといへども、道を學ぶことは師友の力を用ふべし。たとへばいとさゝやかなる藝能、賤しきわざといへども、師なく法なく、教へなくて、只我が心一つに任せたらんには、いかに才力ありても、其のわざよくし難し。まして人の道は、きはめて大なること、諸藝に比べがたき學問においてをや。されば人とある者は、學問して人の道を知らずんばあるべからず。人の道を學ばずして知らざるは、農人の、田作る事を知らぬが如し。又曰く。學問の法は、知行の二つを要とす。此の二つをつとむるを、致知力行とす。致知とは、しることをさきはむるなり。力行とは、行

ふことを務むるなり。道をしること明かならざれば、行はれず。たとへば目なきものゝ、足すぐやかなれど、ゆくべき道をしらで行き難きが如し。行ふ事、するどかざれば、知りても用なし。たとへば目明かなりといへども、足たゞざれば、ゆく事かなはざるが如し。知と行とは、目に見て、足にて行くが如し。目くらければ、行くべき道見えす。足立たざらば行くことかなはず。目足共に備はらざれば、道をゆく難きが如し。知を先とし、行を後とす。萬のこと先づ知らざれば用なし。故に輕重をいへば、行ふを重しとす。知ると行ふとの二つは、一をかくべからざるごと、鳥の兩翼の如く、車の兩輪の

如し。學問は、知と行と並進むをよしとす。並進むとは知れること
 は即すなはち必かならず行ふをいふ。少しの前後はあれど、先ださきず、後れず、
 一度につれだちて行くを並進むといふ。知れるばかりにて行はざる
 は、並進むにあらす。
 又曰く。およそ人の不孝不忠、もろくの悪を行ひ、慾を恣まじにし、
 身をほろぼし、家をほろぼすにいたるは、何にかよれるや、知なけ
 ればなり。又善を行ひて、家をおこし、身をたもち、ほまれを得る
 は、何の故ぞや、知あればなり。知あればよく善悪をしる。善のな
 すべき事をしりて行ひ、悪のなすまじき事を知りて行はず。此故に

知は身の内の大なる寶なり。學者道に志さば、知を求むるを第一と
 すべし。知をひらく事は學問の功にあらずんば、なしがたし。
 松木直秀曰く。何事に依らず、業に就きては、怠るべからず。成功
 は急ぐべからず。唯常に心を此に存すべし。成効に急なれば、退屈
 の念生じて、事遂げがたく、業に就きて怠らざれば、面白み其の間
 に生じて、成効の全きを致すべし。學問の道は事業の中にも、最
 も難きものなれば、最も此處に心得なくばあるべからず。然るに學
 生の常として、初めの程は、随分よく勉強すれども、漸くにして退
 屈の念を生じ、其の甚しきは終に廢學するにも至るものあるは、畢

竟成効を望むの急なるに由れり。大工左官の如き卑近の業すら、尙且數年の年季を入れて之を修むるに非ざれば、其の大工なり左官なり、一人前の職工とはなる事を得ざるにあらずや。況して人の人たる道を修め、士大夫の師表たるべき學問の道にして、さる容易に成就すべきものならんや。元來人の精力は、限りあるものなれば、非常に勉強するは、却て非常の怠惰を生ずる基ともなるべし。故に非常の勉強を要せず、眠食常に失ふことなく、職ある者は職に従ひ、産業ある者は産業を治め、さて後暫時にても暇ある時心を專一にして修學すべし。朝に温めて夕に冷することなかれ。昨は勤めて今は怠

ることなかれ。此の如くにして、日々に變ずることなく、月を累ね、年を積みみて、已まざらんには、餘業に學ぶ者といふとも、成學の効驗必見るべきなり。事業の中最も難しとする學問の道にして既に然り。然らば其の他の事の如き、此の心得をもて勉むるに於ては、何事をか成し果さざらんや。

本居宣長曰く。すべて學問は、はじめよりその心ざしを高く大きに立て、その奥を究めつくさずばやまじと、かたく思ひまうくべし。此志よわくては學問すゝみがたく、倦怠るものなり。貝原篤信曰く。幼より勉め學ぶに、隙を惜むべし。古の聖人すら、

猶寸陰を惜み給ふ。況して今の凡人に於てをや。徒に悠然として、空しく時日を費すべからず。光陰矢の如く、時節流るゝが如くなれば、年若さを恃みて時を失ふべからず。人の世にあるは、事わざ繁くして、物學ふ隙少し。その少き隙を惜まず、怠りて空しく過ぎ、無益の事をなして時を費し、一生を、はかなく終らんこと。いと愚なりといふべし。今年の今日、再び得がたきことを思ひて、かりにも徒に時をうつすべからず。是一生の間、心を用ふべきことなり。古人も、常にして措かず、常に行ひて止まざる者には、及びがたしといへり。たとへば農の、勉めて隙を惜みて、朝夕田を作り、商の

勉めてあきなふものは、必人にすぐれてその家富みて衣食乏しからず、古人も人生は、つとむるにあり。勤むれば則、置しからずといへり。國家の政をくはしく勉むれば、その國家必治る。學問を精しく勉むれば、必諸人にすぐれてその才進む。萬事皆然り。隙を惜みて久く勉むれば、成就せざるものなし。夫人の寶は、隙に過ぎたるはなし。なんとすれば、君子の學問を勉め、國家の政を行ひ、父母主君に事へ、諸の藝を學ぶも、農の耕し、商の販ぎ、百工の器物を製作し、婦女の布帛を織縫ふも、皆隙を用ひてなし出す業なれば、人の最惜むべきこと、隙に過ぎたるはなし。故にその惜むべき

こと、金玉にも過ぎたり。古語にも、聖人は尺璧を貴ばずして、寸
 玉を貴ぶといへり。隙を惜まざる人は、學ぶことも勉むることもな
 ければ、必才智も、德行も、藝能も、なきものなり。隙を惜まざれ
 ば、君子は身を修め、家を齊ふること能はず。農、工、商は貧窮飢
 寒を免るゝこと能はず。學者は、粗學にして不才なり。萬の道々の
 工も必拙し。是隙は人生の寶にして惜むべき故なり。中につき年
 少の時は、事少く隙多し。精力も記憶もつよく、一度見聞きて覚え
 し事は、身を終るまで忘れず。此の時勉學べは、その功多し。三十
 歳以後は、萬の務多く、隙少く、精力やうゝ弱くなるに従ひて、

その覺え衰へぬれば、力を多く用ひても忘れやすく、勞すれども功
 少し。年わかき人は、これをよく心得て、後悔なからんことを思ひ、
 時日を惜みて勉むべし。

鹽谷岩陰曰く。衣食聲色の欲は、人と生れて必定これあり。是る、
 これを人といふなり。然れば佛氏の教の如く、無欲と説くことは、
 人理に通せざるなり。故に吾道は寡欲節欲と説けり。人は必ず欲あ
 るものとして、食ふまじきものを食ひ、取まじきものを取り、爲すま
 じきことを爲ては、禽獸なり。禽獸と人とは本天地の生物なれば、
 五體の欲ある處、甚だ相近きものなり。唯人は心の靈なること、諸

物にすぐれたることゆゑ是をたべたきと思ふとて、他人の物を奪ひとりては、其の心安からざるなり。父子、塵を共にしては、其の心安からざるなり。人を噛み物を殺しては、其の心安からざるなり。其の心のやすからざる處、遙に萬物にすぐれて靈明なる處にて、上下天地に交はるも、只此の皎々たる不_レ忍_レ人の心なり。是の心を擴めて、同類は必ず親み、恩うけたる者は必ず報い、長を譲り、短を受け、取るべきものを取り、取るべからざる者を取らず、衣は寒を防ぐにたれば、必しも綺麗を盡さず。食は命を繋ぐに足れば、必しも甘美を盡さず。綺麗甘美盡すことを好まざるに非ざれども、勢及

ばざる處あるによりて、分に安するなり。故に禮は飲食に始まるとて、此の人のやさしき心ある處に附て、聖人起りて事々物々につき、制度品節をたて、君臣、父子、上下、貴賤の等級を建て、禮を教へたまへり。畢竟人の心、欲ある内に節する心あるによるなり。故に教は外より附たる様にて、其の實は本來の心に本づく、率_レ性之謂_レ道是れなり。此處を能々合點してみれば、邪心、貪欲、驕侈淫佚も起らぬ筈、又起すまじき筈なり。扱今の世にて、禮制と云もの定まらぬものゆゑ、庶人にても金錢さへあれば、天子諸侯の衣食のまねもなる様になりたるゆゑ、口腹支體の欲日々に増長して、みまじき

色を見、きくまじき音を聞き、分に超え、身に應せざる衣食を好む
ことになりたり。此の心を抑ふること、今日にありて第一學問入用
の處なり。畢竟何事も本を推し、末を究めみる時は、自分可笑こと
あるものなり。能々考へみるに、いかなる山海の珍味なればとて、
其の味ふところは舌三寸を過る間にすぎず。いかなる廣堂大厦なれ
ばとて、身をいる、處は膝三尺の間にすぎず。いかなる美袵麗服を
著したればとて、其の心は、愚陋はもとより愚陋なれば、心持面白
くもなきことならずや。然るに口腹支體の爲めに、役々として一生
を送るとは、愚暗の眞たゞ中なり。今衆人に優りて眞の人にならん

と學問する身の上にて、食物のあしきをなげき、衣服の醜惡なるを
耻るとは、誠に婦人女子にも劣りたる心にて、男子と生れたる甲斐
なきことなり。摠じて人は、艱難辛苦を嘗ざれば、仁義の眞味をの
みこまざるものなり。仁義の眞味をのみこまざる時は、人と生れた
る甲斐なきことならずや。艱難辛苦、他の事にあらず、衣食住の、
意にまかせざる是れなり。然れば飲食衣服の、意にまかせざるは、
仁義入門の端にして、仁義を行はんと欲するもの、必ず此處より工
夫をなすことなり。汪信民が咬得菜根、百事可成の語、能々玩味す
べし。

又曰く。諸葛孔明が、時與年馳意與歳去遂成ニ枯落の一語、尤吾人の病に中れり。大抵人怠惰と勉精の善悪は知りたれば、誰も惜陰の心はつきたれども、先今夜は寒きゆゑ早く眠るべし、今朝は雨もふるゆゑ、晏起すべし、是一は父母の遺體を養ふ爲めなり、今日は怠りても、明日は勉むべし、と自分心を欺きて、尤の理窟を生ず。一日一日とたゆむ間に、はや春露降り秋風起て、其年も空しく過すなり。是月に一鶏を攘みて來年を待て全く止むべし、といひたると同様の義にて、初詮やむ時なきなり。范堯夫、賤しかりし時、夜學をつとめ、其の燈焰のつきたる書帳を、公の夫人常に其の子に示し

て、勉めしめたり。司馬溫公は、圓木を枕として睡をさまし。邵康節は、夏扇もつかはず、冬爐にあたらず、夜席につかざることに十有七年とあり。又呂東萊が、朱子の家に投宿せし時、晨に至り目さめて見れば、元晦耿耿たる青燈に對し讀書して、精神益旺する體なりければ、東萊嘆服せしとなり。古豪傑の士とて、生知のものに非ず、皆志を以て氣を帥ゐて、刻苦せしなり。近年にても、太宰徳夫は、工夫して警兒をつくり、倚睡る時は覆へるやうに拵へり。白石先生は、八歳の頃手習をする時、傍に手桶に水を満ておき、眼を催せし時、自ら灌ぎたりとあり。又今の龜井昭陽は、誓て二時より

外は眠らずと聞及べり。張楊園が學規に、學者の通病を擧て五間を説けり。間思慮、間言語、間出入、間涉獵、及接間人與間事。是を五間といひ、戒めたり。嗟乎。勉むれば俊傑となり、勉めざれば凡庸にして終る。此の兩機を能考へて、心の安ずる處に従ふべし。

桂林莊 雜咏示ニ 諸生

廣瀬淡窓

休道他郷多苦辛。同袍有友自相親。柴扉曉出霜如雪。君汲泉流我拾薪。

四時讀書樂

朱晦菴

山光照檻水繞廊。舞雲歸詠春花香。好鳥枝頭亦朋友。落花水面皆文章。蹉跎莫遣韶光老。人生惟有讀書好。讀書之樂々如何。綠滿窓前草不除。春
新竹壓簷桑四圍。小齋幽廠明朱曦。晝長吟罷蟬鳴樹。夜深燼落螢入幃。北窓高臥羲皇侶。呂因素稔讀書趣。讀書之樂々無窮。援琴一奏來薰風。夏
昨夜庭前葉有聲。籬豈花開蟋蟀鳴。不覺商意滿林薄。蕭然萬籟涵虛清。近床賴有短檠在。趁此讀書功更倍。讀書之樂々陶々。起弄明月霜天高。秋

木落水盡千峴枯。迥然吾亦見真吾。坐對韋編燈動壁。高歌夜半雪壓廬。地爐烹泉燃活火。一清足稱讀書者。讀書之樂何處尋。數點梅花天地心。冬

人一能之己百之。人十能之己千之。(中庸)

君子食無求飽。居無求安。敏於事而慎於言。就有道而正焉。可謂好學也已。(論語)

士志於道而恥惡衣惡食者不足與議也。(同上)

幼學之士、先要分別人品之上下。何者是聖賢所為之事。何者是下下所為之事。向善背惡去彼取此。幼學所當先也。(宋陳瑞)

示家塾諸生

古賀侗庵

學問之道。忠與孝而已。忠孝之目。人孰不知。孰初欲為不忠不孝之人。然或率於時勢。窘於禍患。致忠孝之心頓薄。或自以為忠為孝。而不知其為不忠不孝之尤。姑摘一二事言。之。惟知順事父母之為孝。父母有過不能熟諫。使父母陷於不義者不孝也。位貴祿豐、身名俱榮。則感激圖報。小官冷秩。奔走於衣食。則不能無悶。仕而食祿則忠上。退而在畎畝則忘君者不忠也。斯二者世之善士。或不免無學故也。學而理明心誠則焉患斯疾耶。異日諸賢還鄉。人目之云。渠嘗遊劉門。故識忠孝之大節。某之喜爰曾受千金

立志

五一

之賜。

五二

學問の實例

菅得庵、一年の暮、林羅山に余未だ通鑑綱目を讀まず、今年是最早大晦日なれば明年の春ゆるく余のために之を講じてたび候へといふ、羅山これを聞いて、御邊心誠に我が講義を聞かんと思はれなば、何ぞ來年を待つに及ぶべき、とて除日を以て講をはじめけり。又或る時、人の請待を受けて祇園會觀にゆかんとしたる處へ適々一諸生が棠陰比事を携へ來りて質問しければ、羅山一々之を説き聞かせけるうちに、暑の既や移りければ、遂に祇園會觀に

ゆかざりけるとなん。

林春齋は、羅山の第三子なり。天性至孝、溫柔貞固にして經史子集悉く之を窮めざるなく、且本朝の歴史に精通し居たり。年十七始て江戸に入り、將軍家光に謁せり。既にして登用せられ、數幕命を奉じて編著せしこと極て夥し。人或は少しく思慮を省きて以て攝養せられよといへば、春齋、武人は兵を執て戦ひ、死を効して功を建つるを、本分とす。學者、書を讀み言を立て、爲に性命を隕す、固より其の望む所なりといひて、益々勵精しけりといふ。

立志

五三

新井白石は、少時より英敏にして、四五歳のころより文字を識りたりといふ。其の幼時より業を務めて怠ることなく、冬の日暮易くて、學課いまだ果てざるときは、机を西の竹縁に持出して勤め學び、また夜更けて眠りを催すをりは、兼て備へ置ける桶の水を浴み、目を覺して課業を務めたりといへり。

物徂徠も、書を見て暮に向へば、簷際に出で、簷際も亦字を辨すべからざるときは、書齋に歸り、燈火に對ひて、學を務めたりとぞ。其の平生分陰を惜みけること、率ね此の類ひなり。

細井平洲、幼き時より讀書を好みけるが、十七歳のころ京都に遊

學せんことを父に請ひければ、父これを許し學資五十兩を與へぬ、平洲京都に赴き伊勢の人北畠世規といふものと共に家を借りて住み居たるが、惡衣惡食して費用を節し、只管學問を務めぬ。京に居ること一年にして僅に十兩を費ひ、其餘金もて書數百卷を購ひ得たり。歸國の砌りこれを二疋の馬に駄せて還りければ、郷里の人々其の心掛けの善さを讚め、ながく美談としたり。

小川泰山は奇童なり。安永中書家松山天姥、泰山を見て斯兒凡ならず、且書才ありと嘆稱し、乃ち司馬温公の勸學の文を書きて與へければ、泰山且臨模し、且誦して怠らず。漸く文意を解するに

至り、讀書の人に益あるを知りしかば、父之を喜び山本北山方へ弟子入りをさせけり。北山因て史記を授く、泰山之を読み、項羽の、書足三以記二姓名一而已の言に感ずる所ありて、是より復臨書を事とせず、其の後は專讀書のみを務めたり。時に年僅に七歳なりき。泰山一たび北山の門に入りてより、如何なる烈風大雨なりとも通學せざることなく、或る日雪大いに降りければ、笠を冠り雪を冒して出でけるが、雪笠に積りて重くなり遂に勝ふること能はず蹶き顛びて、大いに膝を傷る、往來の人これを見て憫み扶け、家に歸れよと勸めけれども肯かず師の許に至り、痛みを忍へ

常の如く業を受けて歸りけるとなん。

忠道

准后源親房曰く。大日本、は神國なり。天祖はじめて基をひらき、日神ながく統を傳へ給ふ。我國のみ此事あり、異朝には其たぐひなし。此ゆゑに神國といふなり。神代には豊葦原の千五百秋の瑞天穗國といふ。(中略)むかし皇祖天照大神、天孫尊のみことのりに寶祚の隆當與天壤無窮とあり。天地もむかしにかはらず、

日月も光をあらためず、いはんや三種の神器世に現在したまへり、窮あるべからざるは、我國を傳ふる寶祚也。あふぎてもたふとみ奉るべきは、日嗣をうけたまふ皇になんおはします。植村正直曰く。夫人は萬物の靈とて、天地間に生を稟くるもの、人より尊きはなし。殊に我が國は神州と號して、世界の中あらゆる國々、我が國より勝れたる風儀なし。尊き人と生れ、勝れたる神州に住みながら、その邊へは心もつかず、徒に一生を過すは、言ひかひなき事ならずや。人の禽獸に異なるゆゑに、道理を辨へ、恩義を忘れざる心あればなり。即忠孝といふも此の心にて、苟も此の心

なき者は、人面獸心とて、容貌は人なれども、心は禽獸にも劣るべし。されば人の人たる道にかなひ、神州に生れたる主意に争かざらんと思はひ、先神州のありがたきことを考へ、御國恩に報いん心がけすべし。抑神州の風儀、外國に勝れたるといふは、太古天孫此の國を開きたまひ、倫理を立てたまひしより、皇統聊もかはらせたまふ事なく、代々承繼がせたまひて、此の國を治め給ひ、下民を愛憐したまふ歡慮深くあらせられ、下民も亦代々の天皇を戴き、尊み仕へ奉りて、外國の如く國王度々世をかへて、請けたる恩も二代か三代か、君臣の因みも百年か二百年かにして、昨日の君も今日は

仇、今日の臣も明日は敵となるやうにあさましき事にあらず。開闢
 以來動きなき皇統、開闢以來かはらざる臣民なれば、上下の恩義い
 よく厚く益深し、是即萬國に勝れし風儀にて、天孫の立てお
 き給へる御教、君臣の大義と申すも此の事なり。外國の度々かはる
 君臣の間にも此の大義は、重き事にいひ傳へたり。ましてかくまで
 久しき御恩澤には、あくまで報い奉る心なくてはかなふべからず。
 准后源親房曰く。およそ王土にむまれて、忠をいたし命をすつ
 るは、人臣の道なりかならず、これを身の高名とおもふべきにあら
 ず。然れども後の人を勵し、其の跡をわはれみて、賞せらるゝは、

君の御政なり。下として、きはひ争ひ申すべきにはあらぬにや。
 ましてさせる功なくして過分の望みをいたすこと、自あやぶむる
 はなしなれど、前車の轍を見ることは、誠に有り難きならひなりけん
 かし。中古までも、人のさのみ豪強なるをば、いましめられき。豪
 強になりぬれば、必おどる心あり。果して身を亡し、家を失ふた
 めしあれば、戒めらるゝも理なり。鳥羽院の御代にや、諸國の武
 士の、源平の家に屬することをといひべしといふ制符たび／＼あり
 き。源平久しく武をとりて仕へしかども、事あるときは宣旨を賜り
 て諸國の兵を召具しけるに、近代となりて、やがて語らはるゝやか

六二一
ら多くなりしによりて、この制符は下されき。果して今までの亂世の基なれば、いひかひなき事となりけり。このころよりのことわざには、一度軍にかけあひ、或は家の子郎徒節に死ぬるたぐひもあれば、わが功におきては日本國を賜へ、もしは半國をたまはりても足るべからずなど申すめり。まことにさまで思ふ事はあらじなれどやがてこれより亂るゝはしともなり、又朝威のかるくしさも推量らるゝものなり。言語は君子の樞機なりといへり。あからさまにも君をないがしろにし、人におどる事はあるべからぬ事にこそ。さきにしるしはべりし如く、堅き氷は霜をふむより至るならひなれば、

亂臣賊子といふものは、そのはじめ心言葉をつゝしまざるよりいで来るなり。世の中のおとろふると申すは、日月の光のかはるもあらず、草木の色のあらたまるにもあらず、人の心のあしくなりゆくを末世とはいへるにや。ひかし許由といふ人は、帝堯の、國を傳へんとわりしを聞きて、潁川に耳を洗ひき、巢父はこれを聞きて、この水をだに、きたながりて渡らず。その人の五臟六腑の變るにはあらし、よく思ひならはせる故にこそあらめ。なほ行末の人の心、想ひやるこそ淺ましけれ。大かた己一身は恩にはこるとも、萬人の恨みを残すべき事をば、などか顧みざらん。君は萬姓の主にてましませ

ば、限りある地をもちて限なき人に分たせ給はん事は、推して量り奉るべし若一國づゝを望まば、六十六人にてふさがりなん。一郡づゝといふとも、日本は五百九十四郡こそあれ、五百九十四人はよろこぶとも、千萬人の人は悦ばじ、況や日本の半をこゝろざし皆がら望まば、帝王はいづくを知らせ給ふべきにか。かゝる心の萌して詞にも出で面に恥る色のなきを謀叛の始といふべきなり。昔の將門は比叡山に登り、大内を遠見して謀叛を思ひ企てけるもかゝる類にやはべりけん。昔は人の心正しくして自將門に、見も懲り、聞きも懲りはべりけん、今は人の心の斯くのみなりにたれば、この世はよ

く衰へぬるにや。漢の高祖の天下を取りしは、蕭何、張良、韓信が力なり。これを三傑といふ。萬人にすぐれたるを傑といふとぞ。中にも張良は、高祖の師として籌を帷帳の中に運して勝事を千里の外に決するはこの人なりと宣ひしかど、張良はおどる事なくして留といひて、すこしなる所を望みて封せられにけり。あらゆる功臣おほく滅びしかど、張良は身を全したりき。近き代の事ぞかし。頼朝の時までも、文治のころにや。奥の泰衡を追討しに自向ふことありしに、平の重忠が先陣にて、其の功すぐれたりければ、五十四郡の中いづくをも望むべかりけるに、長岡の郡とて、極めたる小き

所を望み給はりけるとぞ。これは人に廣く賞を行はしめんがためにや。かしてかりける男にこそ。

佐々木高行曰く。邦域異らんには、風氣も亦おのづから異りぬべく風氣異らんには、政體も亦從ひて異りぬべし。これ勢の已むべからぬ理なり。されば宇内に國を立つるもの、其の政體おのづからさましくにして一やうならざる事は、固より言を俟たざらんも、今其の大要を取りすべていはい、立君の國と、民主の國との二つを出でざるべくなん。然して立君の政、必しも民主の治に劣れりとせず。民主の治、必しも立君の政に優れりとせず。故に立君の政

をもて、民主の治に代ふべからず。民主の治をもて立君の政に代ふべからず。唯其の各が邦域によりて、つらく其の建國の體を顧み、其の本と末とをよく照し合せて、後々の國是を計らんこそ、いとく須要なる事なりけれ。按ふに民主の治にして最粹なるものは。彼の合衆國なるべく、立君の政にして最有醇なるものは、我が大日本帝國なるべし。まして我が帝國は元來君位の基する所、下より推戴さまつりて即け奉れるにあらぬをや。初皇祖、皇孫に此の國を委して宣はく、此の豊葦原の中津國は、我が子孫のつぎく知さん國なり。又神器を授けて宣はく。これを視る事猶吾

が前を齋くが如く、同床共殿にして仕へまつるべし。天津日嗣の隆盛ならんこと。天壤と窮なからんと。あゝ、我が皇統の淵源と帝業の基礎とはまたたく、此の大詔に於てぞ定りける。いでやかく嚴かに固らに統を垂れ極を立て給ひたれば、神武天皇、高御座に即かせ給ひし以來も、既に御世は百二十一代、年は二千五百餘年の久しきに及び、一系の皇統は連綿として絶ゆる時なく、君臣の秩序は井然として紊れし事なし。實に皇祖の大詔は、詞つづまやかに、旨廣く、萬古不易なるものになんある。こゝをもて、わが今上天皇陛下は、明治二十一年に憲法を發布して皇祖、皇宗の遺訓を

ついで、大日本帝國は萬世一系の天皇之を統治すとぞ宣ひける。あゝ。それ古今一貫なる歴史の精粹は、高く聳えては以て芙蓉峰と顯れ、廣く湛へては以て琵琶湖と彰れたり。恩澤上に積み、士氣下に振ひ、未嘗一度も外辱を受けしことなし。あゝ。盛なるかな。これ誠に世界無比の國體あるがゆゑにこそ。そもく源泉清からざらんには、百里の長流も竟に澄みぬべき期なからん。沙土に金殿玉樓を構へんよりも、巖上に茅屋竹椽を築かんこそ、堅牢にして且安穩ならめ。智をもて王たるものは、一旦其の智失せなば、すなはち其の身も亦亡びなん。力をもて國を立つるものは、一朝其の力衰

へなば、やがて其の國も亦衰へなん。あゝ。是等の状態は萬國の史
乘に於て常に散見する所ならずや。古賢曰く。書を讀みて、盡そを
信せば讀まざるに若かさざらんと、史を讀まんものゝ、眼識を尙ふこ
と既に久し。我を明にして、彼を顧みば、國史の粹華それいづれを
か優りとせん。

徳川齊昭曰く。人は貴き賤しきによらず、本を思ひ恩に報いん心懸
專一と存じ候。抑日本は神聖の國にして、天祖、天孫統を垂れ、極
を建て給ひしよりこのかた、明德の遠きこと太陽と共に照臨ましま
し、寶祚の隆なること、天壤と共に窮なく、君臣父子の常道より

衣食住の日用に至るまで、皆これ天祖の恩資にして、萬民永く飢寒
の患を免れ、天下敢て非望の念を萌さず、有り難しと申すも恐れ多
き御事なり。されば人たるもの苟にも神國の貴き所以と、天祖の
恩資とを忘るべからず。それ〱本を思ひ恩に報い候やう心懸け申
すべく候。人々形こそ生れつきたることなれ。心は、愚なるより賢
きに移さば遷るべし。されば古の忠臣義士を學び、後代にはよき
例にも引かれ、父母の名までも顯すやうに心懸けたき事に候。文武
の道は一致と存じ候、士たるもの不學文盲にては相濟まざる事と存
じ候、我等淺學にて古今に暗けれども、幼きより神聖の道を學び、